aprilia

SR 50

aprilia part# 854066

use+maintenancebook

01_01

01_02

車両のリサイクルについて（01_01，01_02）

モーターサイクルの廃棄

モーターサイクルを廃棄する場合には、お近くの「モーターサイクル廃棄センター」にお持ちください。

- モーターサイクル廃棄センター

モーターサイクル廃棄センターは、モーターサイクルを適正に処理するのにふさわしい施設で、解体可能な材料を特別に処理する大規模なセンターとして全国軽自動車協会連合会に指定されています。 これらのセンターは特別なステッカーを表示することになっており、「公認モーターサイクル廃棄センター」として識別することができます。

- モーターサイクルのリサイクル料金

正規のモーターサイクルのリサイクルシステムには、料金が課されます。

車両に「Motorcycle Recycling」のステッカーが貼付されている場合は、リサイクル料金はメーカー希望小売価格に含まれています。

運搬および回収料金は含まれておりません。 そのため、お客様のところで車両を回収し、それを特定の廃棄センターまたは収集センターに運搬する費用は、お客様の負担となります。 この件に関する詳しい情報は、お近くの廃棄センターにお問合せください。

- 「Motorcycle Recycling」ステッカー

このモーターサイクルには「Motorcycle Recycling」ステッカーが貼付されています。 車両を廃棄する際、このステッカーがモーターサイクルに貼付されていることを確認する必要があります。 ステッカーを車体から剥がさないようにしてください。 このステッカーは仮に破損したとしても、購入後に再び発行したり、ステッカーだけを販売することはできません。

- 「Motorcycle Recycling」ステッカーの貼付場所

原則として、このステッカーはフレームナンバーの近くかシートの下に貼り付けます。

- モーターサイクルのリサイクルに関する質問

お近くのモーターサイクル廃棄センターまたは以下の組織にご連絡ください。

自動車リサイクル促進センター

ホームページ：

http://www.jarc.or.jp/

二輪車リサイクルコールセンター（自動車リサイクル促進センター管轄）

電話： 03-3598-8075

営業時間： 9:30 〜 17:00（土・日・祝日および元旦、12/31 を除く）

安全に関するお知らせ

本マニュアル中使用されている以下のメッセージ表示は、それぞれ次のようなことを表します：

⚠ 安全に関する警告のマークです。このマークが車体もしくはマニュアルに記載されている場合には、傷害の危険がありますので注意してください。このマークのあとに記されている事項を遵守しないと、本人、第三者および車体の危険を招く恐れがあります。

⚠ 危険

重大な傷害もしくは死亡の危険性があることを表します。

⚠ 注意

軽度の傷害もしくは車体への損傷の危険性があることを表します。

注意　本マニュアル中の″重要″という用語は、大切なインフォメーションや使用上の注意のはじめに記されています。

テクニカルインフォメーション

★　このマークの付いた作業は、車体の反対側からも行う必要があります。

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外し作業の逆の手順で行なってください。

″右″及び″左″という用語は車体にライダーが通常の位置で乗っていることを前提としたものです。

警告－ 注意－ 一般的注意事項

エンジンを起動させる前に本マニュアルをよく読み、特に″安全運転″の章をよく読んでください。

ライダーおよび第三者の安全は、ライダーの反応の素早さや機敏さだけでなく、車体についての理解、車両の整備状態、また安全運転のための基本的知識などにより確保されます。路上を安全、かつ適確に操作しながら走行するために、車両に慣れるようにしてください。

注意 このマニュアルは車体構成の一部分とみなされ、中古販売の際にも必要です。

aprilia **は情報の正確さ、最新情報に関して最大限の注意を払い、このマニュアルを作成しました。**

最新情報と正確なデータに最大限の注意を払いこのマニュアルを作成していますが、デザインやモデル改良が常に行われるため、購入された車両との多少の違いが有る場合があります。本マニュアルに記載されている情報に関する詳細や疑問は最寄の **aprilia** 正規ディーラーにお問い合わせください。

このマニュアルでは詳しく記述していない点検や修理、**aprilia** オリジナルパーツ、アクセサリーパーツ、その他の製品の購入に関してはもちろん、技術的アドバイスについても **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

aprilia 社の製品をお選びいただき、まことにありがとうございます。
当社車両でお客様が快適なライディングができるよう心がけております。

このマニュアルの電子記憶、複製、流用に対しては、全面的・部分的に関わらず、またその媒体、国籍を問わず、当社が権利を保有しています。

注意 使用する国によっては公害防止､防音規制のために定期的検査が行う必要があります。

定期的検査が行われる国で車両をお使いの方は：

- **aprilia** 社オフィシャルディーラーその国の規制に適応した部品と交換するためにオフィシャルディーラーまでお問い合わせください。
- 定められた定期検査を行ってください。

注意 車両購入後､「スペアパーツ認識ラベル」に記載された車体識別データを下表に記入してください。ラベルはフレーム左側ホース上にあります。

aprilia
SPARE PARTS IDENTIFICATION

YEAR	Y	1	2	3	4
I.M.	A	B	C	D	E

I	UK	A	P	SF	B	D	F	E	GR
NL	CH	DK	J	SGP	SLO	IL	ROK	MAL	RCH
HR	AUS	USA	BR	RSA	NZ	CDN			

識別データは次のとおりです：

- YEAR = 製造年（Y, 1,2, , ...）
- I.M. = 修正コード（A, B, C, ...）
- COUNTRY CODES ＝ 認証を受けている国（I, UK, A,…）

aprilia 社オフィシャルディーラーご使用のモデルに合ったスペアパーツやアクセサリーのデータを **aprilia** 正規ディーラーにお知らせください。

説明文中に出てくるシンボルは以下の意味を示します：

- OPT **オプションパーツ**
- IE 361 **Purejetエレクトロニックインジェクションエンジン**
- IE 50 **Ditech エレクトロニックインジェクションエンジン**
- C 364 **キャブレーター**

各国向け仕様：

I	イタリア	SGP	シンガポール
UK	イギリス	SLO	スロベニア
A	オーストリア	IL	イスラエル
P	ポルトガル	ROK	韓国
SF	フィンランド	MAL	マレーシア
B	ベルギー	RCH	チリ
D	ドイツ	HR	クロアチア
F	フランス	AUS	オーストラリア
E	スペイン	USA	アメリカ
GR	ギリシャ	BR	ブラジル
NL	オランダ	RSA	南アフリカ共和国
CH	スイス	NZ	ニュージーランド
DK	デンマーク	CDN	カナダ
J	日本		

目次

aprilia

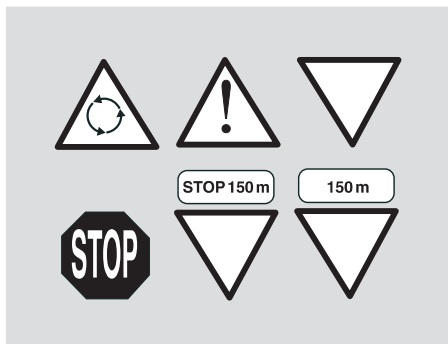
安全運転のために

基本安全ルール

乗物を運転するためには、法律によって定められた必要条件全てを所持することが必要です（運転免許証、年齢、精神的・身体的能力、保険証、車両登録証、納税証明、ナンバープレートその他）。

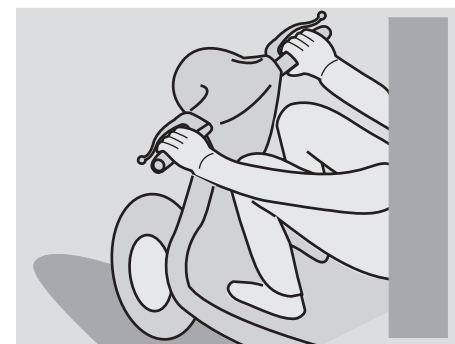
まずは交通量の少ないところ、または私有地を利用し、車両になれるようにしましょう。

医薬品、アルコール、麻薬、精神安定剤などの服用は交通事故を起こす原因となります。

自分が精神的、体力的に運転できる状態か、睡眠を十分に取ったかなどを自分で確認するようにしましょう。。

路上事故の多くは運転手の経験不足が原因です。

車両を絶対初心者に貸さないでください。貸す場合は運転するための必要書類を全て所持している事を確かめてください。

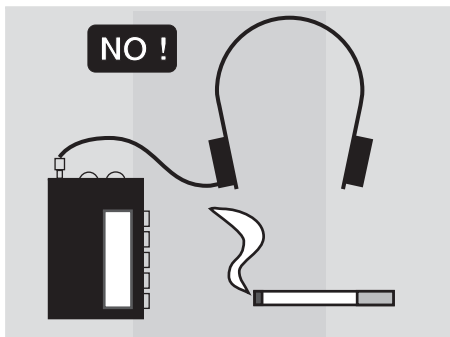
国や自治体が定めた道路交通法、交通標識を守り運転してください。

自分や第三者に危険なハンドルさばき（例：前輪を浮かせる、速度制限を守らない、など）を避けてください。路面や視界の状態の確認を常にしてください。

障害物を避けて走行してください。車両損傷の原因となったり、コントロールを失ったりする原因となります。

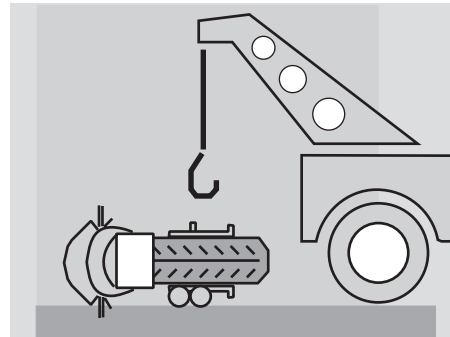
空気抵抗を減らす目的で先行車のすぐ後ろを走行するようなことはやめてください。

⚠ 危険

運転する時は常にハンドルから手を離さず、両足をステップに乗せ、正しい姿勢で運転してください。

運転中は絶対にシートから腰を上げたり、足を伸ばしたりしないでください。

運転中に周囲の人や事物に気を取られたり、他の行為（喫煙、飲食、読書など）をすることはやめてください。

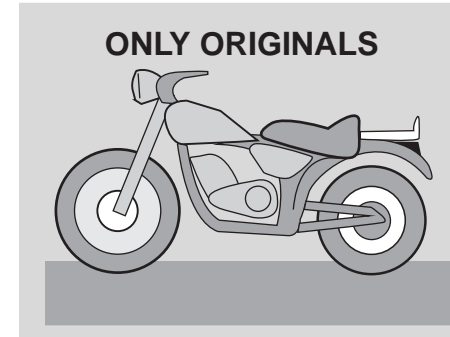
指定油脂類表で定められた燃料、潤滑油のみを使用し、
定期的に燃料、オイル、冷却液のレベルチェックを行ってください。

事故に巻き込まれ、衝突、車両転倒した場合は、コントロールレバー、パイプ、ワイヤー、ブレーキシステムやねじなどのパーツが損害を受けていないか確認してください。

aprilia 社オフィシャルディーラー必要な場合は、フレーム、ハンドル、サスペンション、セキュリティー部門などは個人では十分に点検できないので、aprilia 正規ディーラーに点検を依頼してください。

テクニカルサービスの調整、修理作業を万全に行なうために、どのような不具合も漏らさずお知らせください。

車両に損傷があり、安全走行が保証できない場合は絶対に車両を運転しないでください。

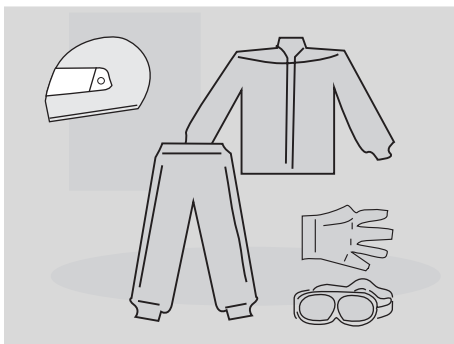
ポジション、角度を変えたり、ナンバープレート、ウインカー、ライト、警告ホーンなどの色を変えたりしないでください。

車体の改ざんは保証契約を無効にします。

車体の改造、オリジナルパーツの取り外しは違法な上、車体の安全性を減少させます。

車両装備は国や自治体が定めた法律、規則に従うことを推奨します。

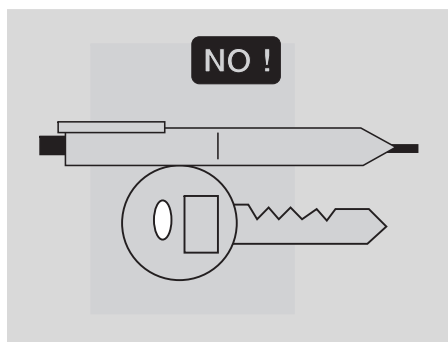
車両本来の仕様を変更したり、性能を向上させるための改造は絶対にしないでください。

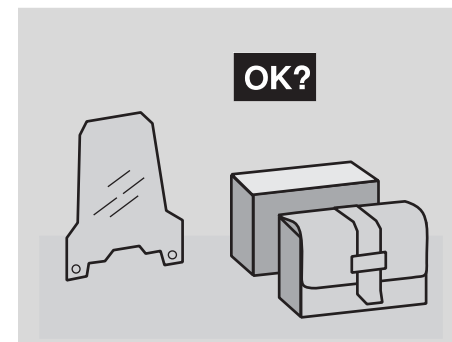
他の車両との競争は決してしないでください。

道路外での走行を避けてください。

服装

出発前には必ずヘルメットをしっかりと着用してください。なお、ヘルメットは保安基準認定品で、損傷などがなく、形やサイズが適したものであり、バイザーに汚れのないことを確認してください。

服装は身体を保護する服を着用してください。転倒した場合でも他のドライバーから見えやすいように、なるべく明るい色、または反射素材の物がよく、体を十分に保護するものを選んでください。

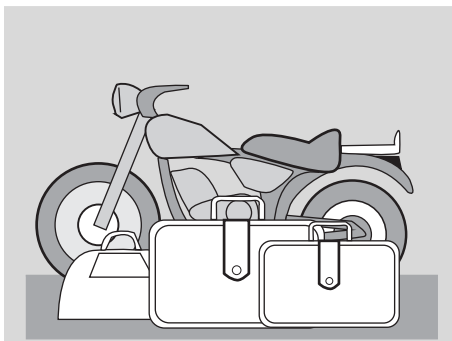
服装は身体にぴったりするもので、手首、足首の部分が締まる形のものをお薦めします。紐、ベルト、ネクタイなどが緩んで走行中に可動部分に巻き込まれ、運転に支障を及ぼすことのないよう注意してください。

転倒の際に危険となるようなものをポケットに入れないでください。

例：キー、ペン、ガラス瓶など、先の尖ったもの。（同乗者についても同様です。）

アクセサリー

車両所有者は付属品の使用と設置、選択などのすべてに責任を持ってください。

付属品取り付けの際には、クラクションやライトなどを覆ったり、機能を損なわせたり、サスペンション･ストローク、操縦角度、車高などの制限を守らなかったり、コントロールを失ったり、コーナリング時の接地が低くなりすぎたりしないよう注意してください。

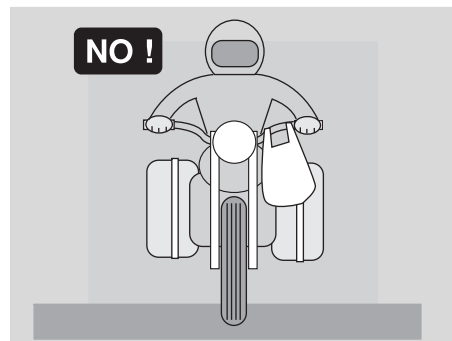
運転操作の邪魔になるようなアクセサリーの使用は避けてください。緊急操作の際の反応時間を遅らせ、事故の原因になります。

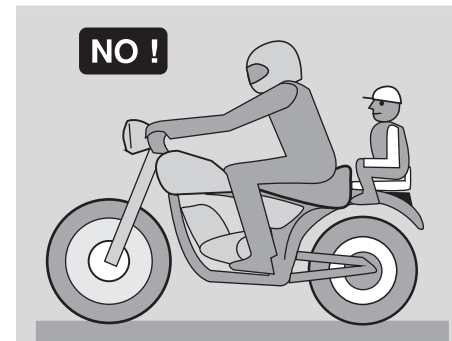
大きすぎるフェアリング、フロントガラスなどの設置は高速走行時に空気抵抗が増し、車体の安定性が減少します。

危険を避けるため、付属品がしっかり設置されていることを常に確かめてください。

電流容量を超えるような電装パーツの追加、電気系統の改造はしないでください。電気的負荷が過重になり、車両が突然停止したり、ライト類や警告ホーンの動作に必要な電流が不足する危険な事態を招きます。

aprilia オリジナル付属品の使用を推奨します。(**aprilia** genuine accessories)

荷物

荷物は大きさと重量に注意して適切に搭載してください。積荷は車両の重心に近く、また左右の重量配分が等しくなるようにします。そして積荷が車体にしっかりと固定されていることを確認します。長距離ツーリングの際は特に注意してください。

大きいもの、重いもの、危険なものをハンドル、フェンダー、フロントフォークなどに吊り下げないでください。カーブでの反応が鈍くなる他、操縦性が損なわれます。

車体の両脇に重い荷物やヘルメットを掛けないで下さい。歩行者や障害物にあたって、車体のバランスを失う危険があります。

車体にしっかりと固定できない積荷は運ばないでください。

後部の荷物ラックから大きくはみ出たり、またライト類、ホーンなどを覆うような積荷は運ばないでください。

荷物ラックや小物入れに子供や動物を載せて運ばないでください。

各荷物ラックの許容重量を超えないようにしてください。

過荷重になった車両は安定を失い、操縦性も悪くなります。

主要部品の配置

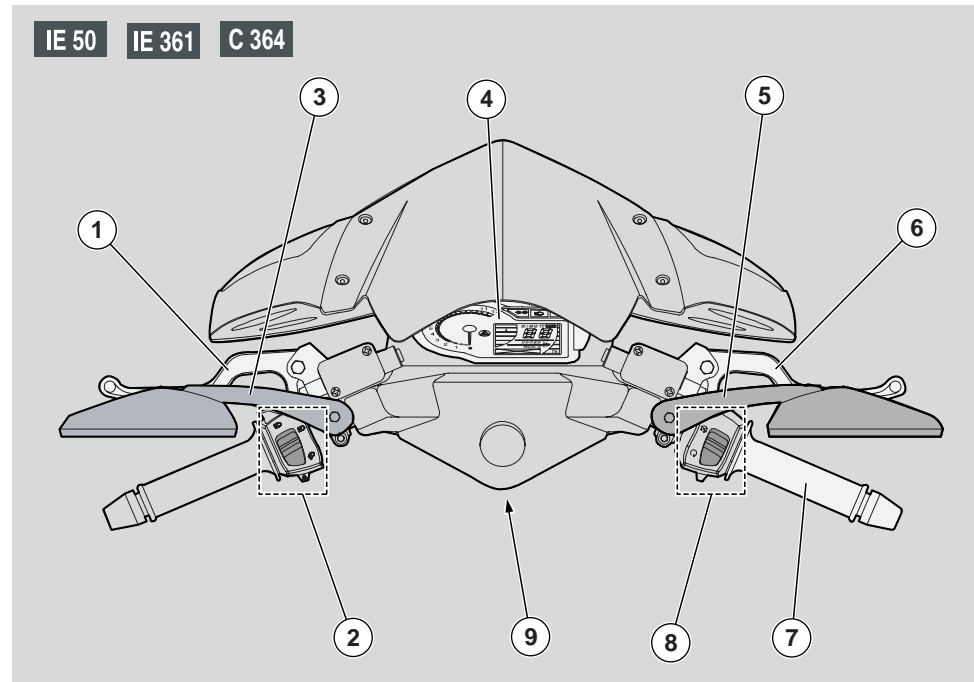
各部名称

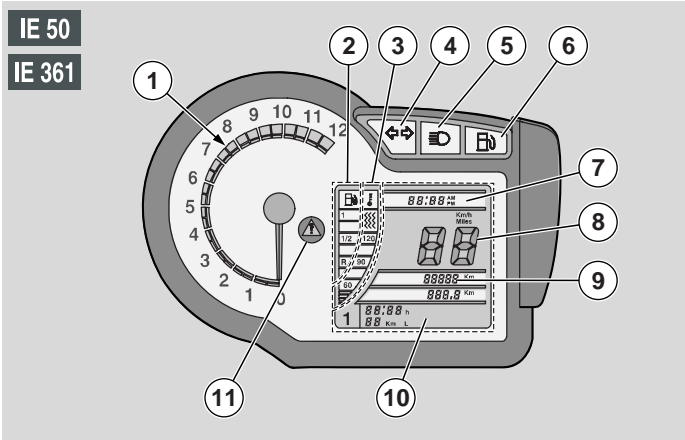
1) 冷却液タンク
2) クーラントエキスパンションタンクキャップ
3) リアブレーキオイルタンク
4) ミキサーオイルタンクキャップ
5) ミキサーオイルタンク
6) シートロック
7) バッテリー / ツールキットトランクカバー
8) 燃料タンク
9) 燃料タンクキャップ
10) エアクリーナー
11) 中央スタンド
12) パッセンジャーフットレスト
13) サイドスタンド OPT

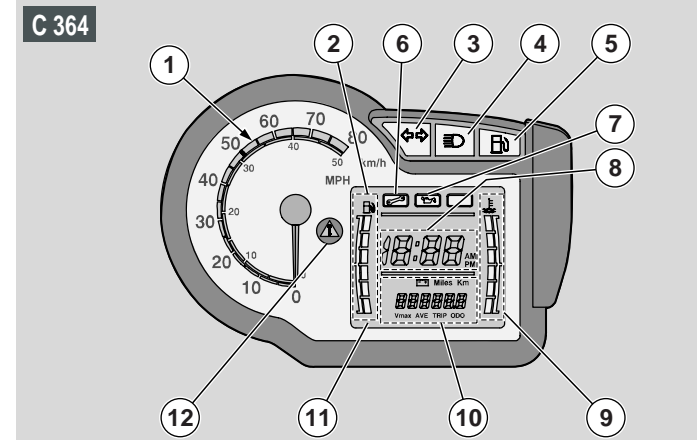
各部名称

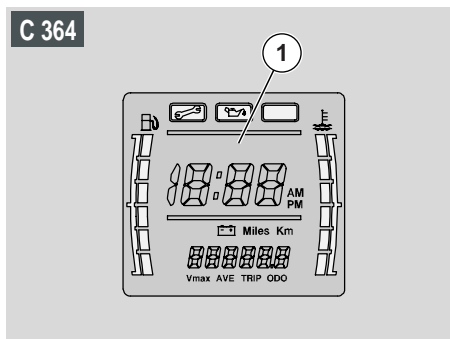
1) ヘルメット / 書類入れ トランク
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) かばん、荷物掛けフック
4) フロントブレーキオイルタンク
5) 警告ホーン
6) バッテリー
7) ヒューズケース
8) 点火プラグ
9) 右リアフットステップ
10) 盗難防止フック (Body-Guardaprilia OPT ケーブル装備用)

操作装置とメーター類の配置

各部名称

1) リアブレーキレバー
2) ハンドル左側のエレクトリックコントロール
3) 左バックミラー
4) メーターパネル
5) 右バックミラー
6) フロントブレーキレバー
7) スロットルグリップ
8) ハンドル右側のエレクトリックコントロール
9) イグニッション / ステアリングロックスイッチ（○-⊠-🔒）

メーターパネル

各部名称

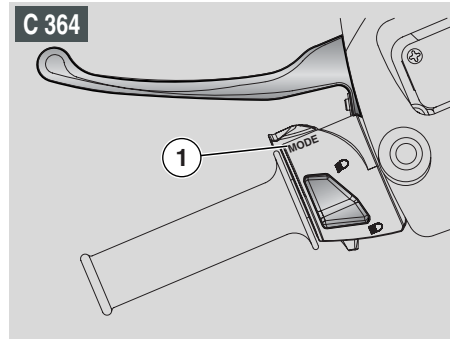
1） タコメーター
2） 燃料レベル表示器（ ）
3） 冷却液温度表示器（ ）
4） ターンインジケーター警告灯（⇦⇨）グリーン
5） ハイビーム表示灯（ ）ブルー
6） 燃料レベル警告灯（ ）オレンジ
7） 時計
8） スピードメーター
9） オドメーター
10） マルチ機能インジケーター： 走行時間 / 燃料消費量 / 部分、平均、最高速度 / クロノメーター / バッテリーテンション / 次回の定期点検時期
11） 警告ランプ（△）レッド

各部名称

1） スピードメーター
2） 燃料レベル表示器（ ）
3） ターンインジケーター警告灯（⇦⇨）グリーン
4） ハイビーム表示灯（ ）ブルー
5） 燃料レベル警告灯（ ）オレンジ
6） 定期点検時期インジケーター
7） ミキサーオイルタンク警告灯（ ）
8） デジタル時計
9） 冷却液温度表示器（ ）
10） マルチ機能インジケーター： オドメーター（ODO）/ トリップメーター（TRIP）/ バッテリーテンション（ ）
11） 警告ランプ（△）レッド

デジタルマルチ機能コンピューター C 364

マルチ機能インジケーター機能

ハンドルバーの左側にある Mode (2) ボタンで数々の機能を選択する事が出来ます：時計の調整、オドメーター機能 (ODO)、トリップメーター機能 (TRIP)、バッテリーテンションの計測、トリップメーターのリセット

オドメーター機能 (ODO)

マルチ機能ディスプレイ (1) 上のダッシュボードが点灯するとオドメーター (ODO) 機能が表示されます。

トリップメーター機能 (TRIP)

オドメーター (ODO) が表示された状態で、Modeボタン (2) を一度押すとトリップメーター (TRIP) が表示されます。トリップメーターをリセットするには Mode ボタン (2) を 3 秒以上押し続けてください。

バッテリー電圧

バッテリー機能を表示するには、オドメーターが表示された状態からModeボタン (2) を 2 度押します。

Km から Mi（マイル）表示への変換

マルチ機能ディスプレイ (1) 上にバッテリーテンションが表示されている状態で、Mode ボタン (2) を 10 秒以上押すと、キロメーター表示 (Km) をマイル表示 (Mi) に変換する事が出来ます。ボタンを押している間に今使用されている単位が点滅します。10 秒以内にボタンを離すと単位を変更する事は出来ません。

時計の設定

注意 安全確保の為に時計の設定は停車している状態でしか出来ません。

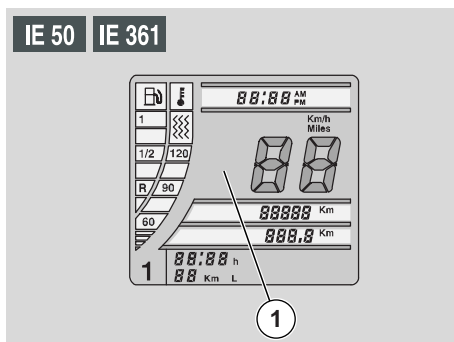
3 秒以上 Mode ボタン (2) を押し続けます。

時と分が点滅を始めます。

まず時の設定を行います。Mode ボタン (2) を押すたびに時数が大きくなります。

分設定に移るには Mode ボタン (2) を 3 秒以上押します。分数も Mode ボタン (2) を押すごと大きくなります。

設定後、Mode ボタン (2) を 3 秒以上押すと、時刻の設定に戻ります。

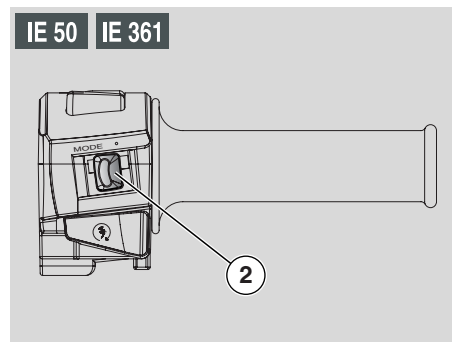
3 秒間どのボタンも押さずにいると、ディスプレイは自動的に時計設定機能から出て、元に戻ります。

デジタルマルチ機能コンピューター IE 50 IE 361

joystick MODE (2) の使用

ハンドルバー右側にある joystick MODE ボタン (2) により、数々の機能を以下の順で選択する事が出来ます: joystick MODE ボタン (2) を右か左 (UP/DOWN) にずらすと、機能のスクロール、一回すばやく押すと機能の選択、長く押すと入力データの決定。

マルチ機能インジケーター機能

joystick UP/DOWN ボタン (2) を操作すると以下の順で機能が表示されます。

TRIP 1➞ TRIP 2➞ バッテリーテンション ➞ クロノメーター ➞ メニュー

TRIP1 - TRIP2 機能

2 つの枠にはトリップメーター、平均走行速度、最高走行速度のメモリーされた 2 つの値が表示されます。数値をリセットするには joystick MODE ボタン (2) を長く押します。

バッテリーテンション機能

バッテリーのテンションが表示されます。

クロノメーター機能

joystick MODE ボタン (2) を短く押すとクロノメーターが回り始めます。

joystick MODE ボタン (2) を押してから 10 秒以内にもう一度押すと、それまでの秒数が消され、その時点からまた新しくカウントが始まります。

カウントが始まって 10 秒以上たってから joystick MODE ボタン (2) を押すと、カウントが止まり、記録された後に新しいカウントが始まります。

カウントを止めるには joystick MODE ボタン (2) を長く押します。

カウントした記録は 16 回分まで記録する事が出来、メニュー機能の”クロノメーター”で表示されます（「メニュー機能」参照）。

メニュー機能

メニューは joystick MODE ボタン (2) を長く押すと表示されます。 もう一度 joystick MODE ボタン (2) を押すと、セッティングとクロノメーターが表示されます。

セッティング - joystick MODEボタン (2) をもう一度押すと以下のメニューに移ります：時計の設定、コードの変更、外国語設定。

- 時計の設定：（セッティングメニューから）joystick MODE ボタン (2) を短く押し、設定機能に入ります。joystick UP/DOWN ボタン (2) で時数を設定し、joystick MODE ボタン (2) で決定します。joystick UP/DOWNボタン (2) で分設定に移り、joystick MODE ボタン (2) で決定します。
- コードの変更：（セッティングメニューから） joystick MODE ボタン (2) を短く押し、5 桁の安全コードのセッティング機能を選択します。joystick UP/DOWN ボタン (2) で最初の1桁目を設定し、joystick MODE ボタン (2) で決定します。その後 2 桁目からも同様の手順で行います。

注意 トランスポンダー処理されていないキーやコード承認されていないキーで発進するには安全コードを入力する必要があります。

注意 新車に記録されている安全コードは 00000 です。

注意 新車は発進のたびにダッシュボード上に警告が出て、プレメモリーされている安全コードを帰る事を促します。プレメモリーされている数字から変更し、そのコードを車両と一緒に保管せず、失くさないように気を付けて下さい。車両を売却する際には設定したコードも新しい所有者に渡す事を忘れないで下さい。

– 外国語設定：（セッティングメニューから）joystick MODE ボタン (2) を短く押し、joystick UP/DOWN ボタン (2) にて好みの言語を選び、joystick MODE ボタン (2) を長く押すことによって決定します。

クロノメーター – このメニューでは今までに記録されているデータの表示とリセットが出来ます。

– 表示 ： このメニューではクロノメーター機能で記録したデータを表示する事が出来ます。joystick MODE ボタン (2) を短く押すことにより表示メニューから出る事が出来ます。

– リセット ： このメニューではクロノメーター機能で記録されたデータをリセットする事が出来ます。joystick MODE ボタン (2) 長く押すことにより、記録されている全てのデータを消す事が出来ます。

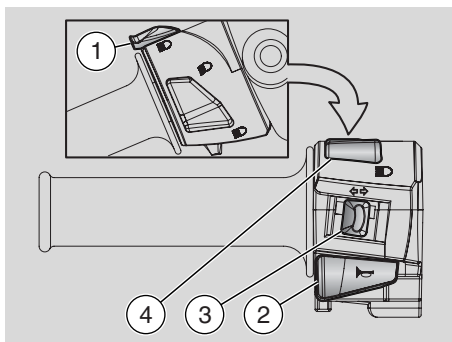
⚠ 危険

各機能のメニュー選択は車両が停車している状態で行って下さい。

計器およびインジケーター類（表）

注意 キーを ON（○）にした時、全ての警告·表示灯、ダッシュボードライト、デジタルディスプレーのインジケーターが機能チェックのために 3 秒間点灯します。

項目	機能
ターンインジケーター表示器	右または左へ曲がるための方向指示ランプが点いている時に点滅します。
ミキサーオイルレベルインジケーター	**ATTENZIONE** **警告ランプと共に点灯し、ミキサーオイルのレベルが低い事を警告します。その場合にはミキサーオイルの補給を行って下さい、25 ページ参照（ミキサーオイル）。**
スピードメーター	走行速度を示します。
ハイビーム表示灯	高いほうのヘッドライトが付いている時、または警告用ハイビーム（PASSING⇩）を付けた時に点灯します。
燃料警告灯	燃料タンク内のガソリン量が 1,2 リットルになった時に点灯します。 **この場合にはすぐに燃料補給をしてください。24 ページ（燃料）**
燃料レベル表示器	おおよその燃料量を示します。
デジタル時計	現在の（設定された）時間を表示します。
冷却液温度表示器	エンジン冷却液の温度を示します。 最初のランプが点くと発進するのに十分な温度である事を示します。 通常の運転中温度の矢印は中央に位置します。温度が高すぎる場合には警告ランプが点灯します。その場合には直ちにエンジンを止め、冷却液のレベルを点検して下さい、28 ページ参照（冷却液）。 **ATTENZIONE** **冷却液温が許容値を超えた場合には、エンジンに重大な損傷を与えることがあります。**

項目	機能
警告ランプ ⚠	何かの値が許容値を超えた場合にデジタルディスプレイ上のアイコンと同時に点灯します。点灯した場合には、直ちに異常を検出し、対処してください。 以下のような場合に点灯します：ミキサーオイルがリザーブ、冷却液温度の過上昇、温度センサーの異常、燃料センサーの異常、インジェクションシステムの異常。 IE 50 IE 361 キーを "○" のポジションにすると何秒間か点灯します。 ATTENZIONE – 数秒後にランプが消えると発進可能な事を示します。 **– ランプが 10 秒以上点灯したままでもエンジン作動は出来ますが、**aprilia **社オフィシャルディーラーに連絡されることをお奨めします。**aprilia **社オフィシャルディーラー– ランプが点滅している場合には、決してエンジンを作動させず、直ちにオフィシャルディーラーに連絡してください。**aprilia **社オフィシャルディーラー**. **– ランプが点灯したままの場合は故障箇所がありますので、直ちに** aprilia **オフィシャルディーラーに連絡してください。**aprilia **社オフィシャルディーラー**
サービスアイコン	定期検査の時期が近づくと点灯します。 アイコンはメンテナンス距離の 300 ㎞前に点滅し始め、点検距離に達すると点滅が終わり、点灯し続けます。
マルチ機能インジケーター	色々な機能を表示します、14 ～ 15 ページ参照 (デジタルマルチ機能コンピューター)。

ハンドル左側のエレクトリックコントロール

注意 インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが "○" の位置にないと機能しません。

1) PASSING ボタン（⇩） IE 50 IE 361
ボタン (PASSING) を押すと、ハイビームが点滅します。

注意 パッシングを停止するにはボタン "⇩" を放します。

1) MODE ボタン C 364
ボタンを押すとマルチ機能ディスプレイが表示されます。

2) 警告ホーンボタン (📯)
押すと警笛ホーンが鳴ります。

3) ターンインジケータースイッチ (⇦⇨)
左に出すにはスイッチを左にずらし、右に出すにはスイッチを右にずらします。ウィンカーを停止するにはこのスイッチを押します。

4) ヘッドライトスイッチ（≣D - ≣D）
スイッチが "≣D" ポジションの時はハイビーム、"≣D" ポジションの時はロービームが点灯します。

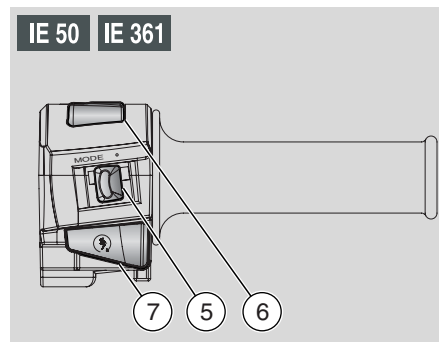
ハンドル右側のエレクトリックコントロール

注意 インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが "○" の位置にないと機能しません。

5) MODE ボタン IE 50 IE 361
joystick MODE ボタン (5) を左 / 右にずらすとディスプレイ上で UP/DOWN し 、押すと決定します。

6) エンジンストップスイッチ（○ - ⊗）

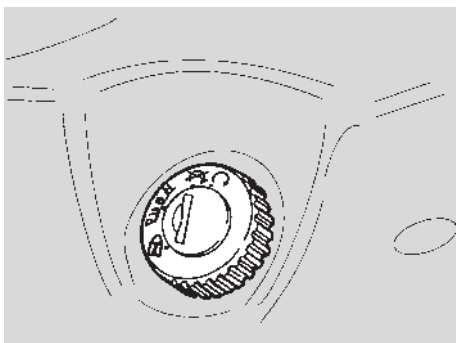
7) スタートボタン（⚡）
ボタン "⚡" を押すと、スターターモーターがエンジンを作動させます。スタート方法は 33 ページ （ エンジンの始動 ）。

IE 50 IE 361

⚠ 危険

走行中には絶対にこのエンジンストップスイッチ "○ - ⊗" を操作しないでください。

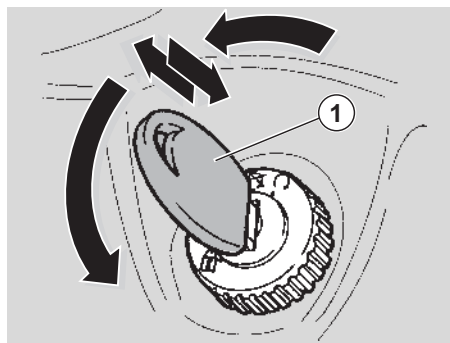
このスイッチは安全のため、または緊急時に使用します。
スイッチが "○" にある時のみエンジン始動が可能で、"⊗" の時にはエンジンが停止します。

⚠ 注意

エンジンを止めた状態でイグニッションスイッチが "○" の位置にあるとバッテリーが放電する恐れかあります。
車両を停止し、エンジンを切った後、"⊗" スイッチを の位置にしてください。

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチは右側のステアリングバーの近くにあります。

注意　キー (1) はイグニッションスイッチ / ステアリングロック、バッテリー / ツールキットトランク、サドルロックなどをします。納車時には計 2 本のキー (1 本はスペアキー) がついています。

注意　スペアキーは車両と別の場所に保管してください。

ステアリングロック

⚠ 危険

走行中は絶対にキーを“ ”の位置に回さないでください。車体のコントロールを失う危険があります。

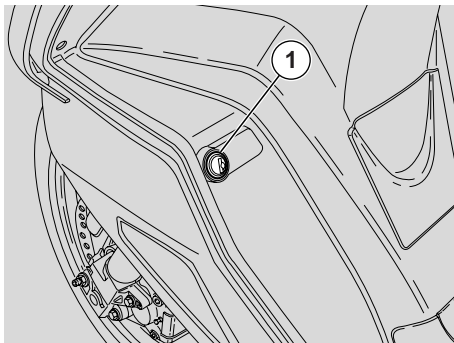
機能

ステアリングロックは次の手順で行なってください :

- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- ◆ キー (1) を“ ”のポジションに回し、押します。

注意　キーとハンドルを同時に回します。

- ◆ キー(1) を反時計方向 (左回り) に回し、キー (1) が“ ”の位置に来るまでハンドルをゆっくり回します。
- ◆ キーを引き抜きます。

位置	機能	キーの抜き取り
ステアリングロック	ステアリングがロックされています。 エンジン作動および、ライトをつけることは出来ません。	キー抜取り可能。
	エンジン作動および、ライトをつけることは出来ません 。	キー抜取り可能。
	エンジン作動可能。ウインカ ー、警 告ホーン、MIX オイルランプ、燃料警告ランプ、オイル温度計 (エンジン温暖時のみ)、燃料レベル表示計などが正常に機能しています。	キー抜取り不可能。

シートロックの掛け方·外し方

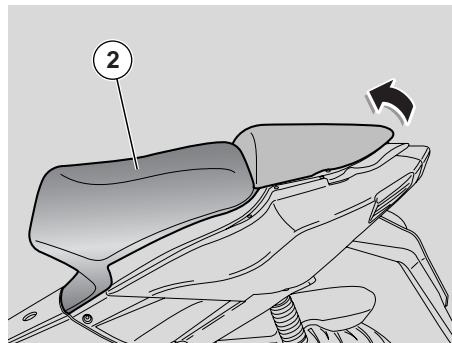
サドルロックを外し、持ち上げるには：

◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。
◆ フロントインナーシールド (1) にある穴にキーを挿入します。
◆ キーを時計方向に回し、サドル (2) を持ち上げます。

注意 サドルを下げ、ロックする前にヘルメット / 書類入れトランクの中にキーを置き忘れていないか確認してください。

◆ シートをロックするにはシートを下げ、ロックが掛かるまで軽く押します（強く押しすぎないよう注意してください）。

⚠ 危険

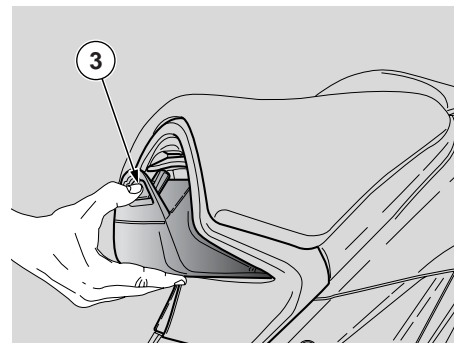
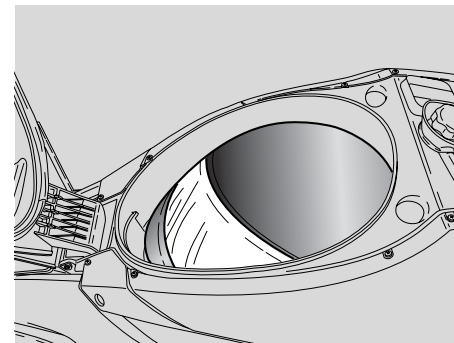
車両を運転する前にはシートがロックされているか、よく確かめてください。

ヘルメット / 書類入れ トランク

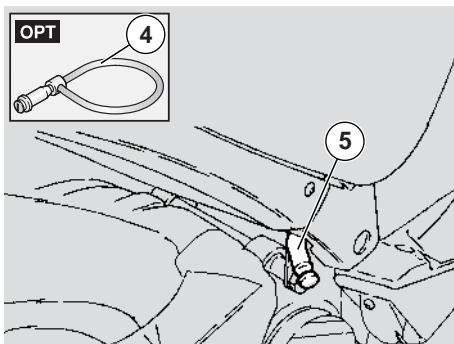
ヘルメット / 書類入れトランクのお陰でヘルメットや書類などを停車するたびに持ち歩く必要がなくなりました。
トランクはサドルの下にあります。
ツールキットを使用するには：

◆ シート (2) を持ち上げます、側面参照（シートロックの掛け方·外し方）。

注意 図のようにヘルメットを下向けに配置します。

⚠ 危険

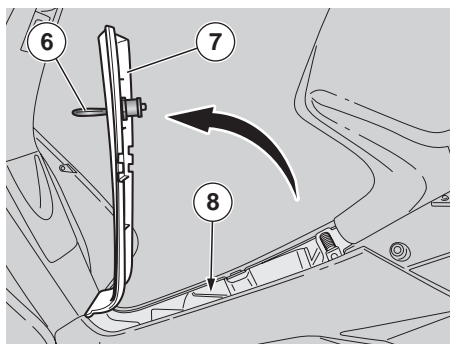
ヘルメット / 書類入れトランクに荷物を入れすぎないように気を付けて下さい。最大載積重量： 2,5 kg

小物入れスペース

この車両のシート前部には小物入れがあります。小物入れ (3) のつまみを押して開けます。

盗難防止フック

盗難防止フック (5) は車両の右側、フットボードの近くにあります。

車両の盗難防止のために **aprilia** オフィシャルディーラーにて購入可能な **aprilia** OPT “Body-Guard 装備ケーブル 4) のご使用を推奨します。.

⚠ 危険

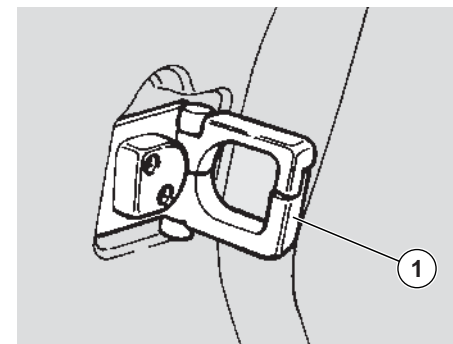
このフックは停車時の盗難防止用のみに設計されたのもですので、車体を持ち上げるのに使ったり、他の用途に使ったりしないで下さい。

バッテリー / ツールキットトランク

車両下部のフットレス間にあります。

ツールキットを使用するには：

- ◆ シートロックの鍵穴にキー (6) を挿し込みます。
- ◆ キー (6) を時計方向に回し、引き、カバー (7) を引き、持ち上げます。

工具キット (8) の内容は以下のとおりです：

- ツールケース；
- C 364 21 mm スパークプラグソケットスパナー；
- IE 16 mm スパークプラグソケットスパナー；
- C 364 ソケットスパナー用ロッド；
- プラス / マイナス両ヘッド PH タイプ、サイズ 2 ドライバー；
- スクリュードライバーハンドル；
- 4 mm 六角スパナー ；
- IE 13 mm 六角スパナー ；

かばん、荷物掛けフック

⚠ 危険

車両の操作、足元の動きを妨げ、とても危険ですので、大きなカバンやかさの大きい袋、包みなどはフックに掛けないでください。

カバン、荷物掛けフック (1) はインナーシールドの前部分にあります。

最大載積重量： 1,5 kg

⚠ 注意

スクリーン上の太陽光線の反射はダッシュボードを傷める可能性があります。太陽光線が前から当たるように停車するようにして下さい。

アクセサリー OPT

以下のアクセサリーが入手可能です。

- スクリーン（大）(1);
- 荷台 (2);
- サイドスタンド (3);
- New Concept トランク

燃料

⚠ 危険

エンジン内で燃焼される燃料は、非常に燃えやすく、危険なコンディションでは爆発の恐れもあります。燃料補給やメンテナンスは換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行なってください。火災や爆発を避けるため、補給の間など燃料の蒸気の近くで喫煙したり、炎、火花、その他、あらゆる高熱物を燃料に近づけたりしないで下さい。

また、給油の際には注入口から燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた燃料が熱いエンジン外壁に触れると引火する危険があります。もし燃料をエンジンの表面にかけてしまった場合は、エンジンを始動する前に、表面が完全に乾いていることを確かめて下さい。燃料は暑さや太陽熱で膨張します。
決してタンクから溢れそうな程、ぎりぎりまで入れないでください。

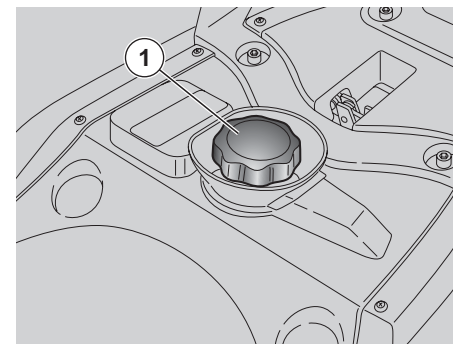
燃料補給後は燃料タンクキャップをしっかり締めてください。燃料が皮膚についたり、ガスを吸いこんだり、飲み込んだりしないように注意してください。また、ホースなどを使って容器を移し換えることもやめてください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料は DIN 51 607 に基づいた最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85(N.O.M.M.) の無鉛ガソリンのみ使用してください。

燃料補給は次の手順で行なってください：

◆ シートを持ち上げてください。21 ページ参照（シートロックの掛け方･外し方）

◆ フィラーキャップ (1) を緩め、取り外します。

燃料タンク容量

（リザーブタンク含む）: 7,0 リットル

タンク補助: 1,2 リットル

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ 燃料補給を行ってください
◆ キャップ (1) を元の場所に取り付けます。

⚠ 注意

蓋がしっかり閉まっていることを確認して下さい。

潤滑油

⚠ 危険

オイルを毎日使用したり、長い間使用したりすると、肌に危害をきたす恐れがあります。
使用後は、必ず手をよく洗って下さい。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお薦めします。

子供の手の届かない場所に保管してください。

環境汚染を防ぐために、オイルを定められた場所以外に放置しないで下さい。

⚠ 注意

取り扱いには、十分注意してください。
オイルを撒き散らさないように注意してください！整備中の部品やその周りにオイルをつけないように注意してください。
オイルが付着した場合は丁寧に拭き取ってください。

aprilia **社オフィシャルディーラーオイルの漏れや機能不全が生じた場合は、**aprilia **社のオフィシャルディーラーに連絡してください。**

トランスミッション（変速機）オイル

トランスミッションオイルのレベルチェックを4000 km（2500 mi）または12ヵ月毎に行います。

最初の 500km(312mi) 後にオイル交換を行い、その後は、12000km(7500mi) または２年ごとに行ないます。

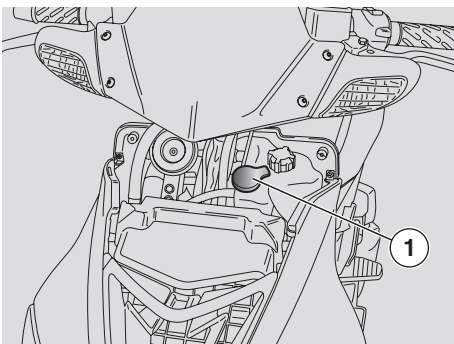
点検と交換は、**aprilia** 社のオフィシャルディーラーに連絡してください。**aprilia** 社オフィシャルディーラー

ミキサーオイル

ミキサーオイルは 500 km（312 mi）C 364、2000 km（1240 mi）IE ごとに補充して下さい。

この車両はエンジンを潤滑するための個別のミキサーを装備しているのでガソリンとオイルを混ぜることが可能です。65 ページ参照（指定油脂類表）。

IE 50 この車両はエンジンを潤滑するためのオイルを配分するエレクトリックポンプを調節するコントロールユニットが搭載されています。65 ページ参照（指定油脂類表）。

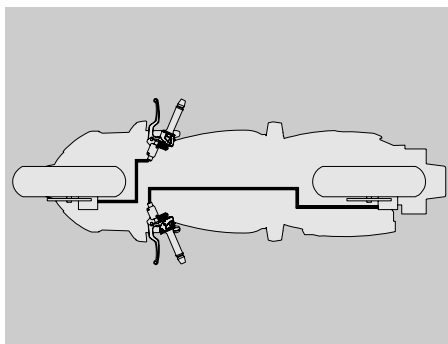
オイルレベルがリザーブに入った事は警告ランプ（⚠）が点き、ダッシュボード上にミキサーオイル警告アイコン〝 〟が表示されることによって判ります、13 ページ参照（メーターパネル）。

⚠ 注意

ミキサーオイルを使用しないでの走行はエンジンに重度の損傷を与えます。ミキサーオイルが無くなった場合やミキサーオイルパイプが取れてしまった場合には清掃のために aprilia オフィシャルディーラーに連絡する必要があります。aprilia 社オフィシャルディーラーミキサーオイルシステムに入った空気によってエンジンが重度の損傷を受けるため、この作業は必然です。

ミキサーオイルを補充するには：

- ◆ フロントフェアリングの上部パネルを取り外します、48 ページ参照 (フロントカバーの取り外し)。
- ◆ キャップ (1) を外します。

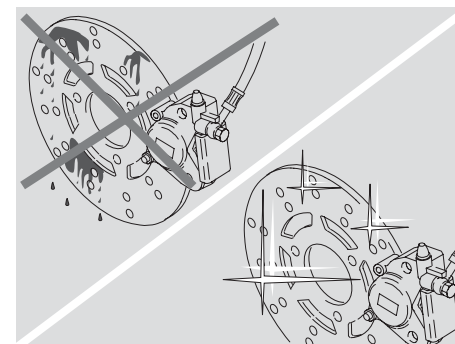
タンク容量：1,2 リットル
タンク補助：0,2 リットル

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

- ◆ オイルの補給を行ってください
- ◆ キャップ (1) を元の場所に取り付けます。

⚠ 注意

蓋がしっかり閉まっていることを確認して下さい。

ブレーキオイル - 注意事項

⚠ 危険

ブレーキレバーの突然の抵抗やクリアランスは、水圧回路システムに問題があります。ブレーキシステムが正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは aprilia 社オフィシャルディーラー aprilia オフィシャルディーラーにご相談ください。特にコントロールや維持管理などを行なった後は、ブレーキのディスクとフリクションの部品の埃や油汚れに十分注意してください。
ブレーキパイプがねじれていたり破損したりしていないかよく確かめます。子供の手の届かない場所に保管してください。環境汚染を防ぐために、所定の場所以外に液を放置しないでください。

ディスクブレーキ

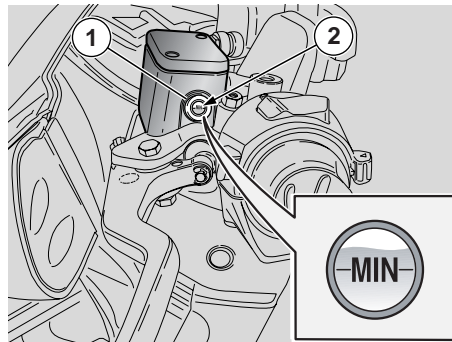
⚠ 危険

ブレーキは、安全を守る主機能です。常にパーフェクトのコンディションに管理し、出発の前にチェックを怠らないようにして下さい。

ディスクが汚れていればパッドも汚れ、その結果、ブレーキ機能に問題が起こることになります。パッドが汚れた場合は、すぐに交換し、ディスクの汚れは、高度の油汚れおとしを使用して拭き取ります。ブレーキ液は、2 年ごとにアプリリア社オフィシャルディーラーに依頼して交換してください。aprilia **社オフィシャルディーラー**

aprilia **社オフィシャルディーラーブレーキシステムが正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは直ぐに** aprilia **オフィシャルディーラーにご相談ください。**

注意 この車両は、フロント、リア別々のディスクブレーキを装備しています。以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

ディスクパッドが摩耗すると摩耗分を補うためブレーキオイルが減ります。

ブレーキオイルタンクはハンドルカバーの下、ブレーキレバーの傍にあります。

タンク内のブレーキオイルの量を定期的にチェックして下さい。（ ブレーキオイルの点検 ）参照。またディスクパッドの摩耗も定期的にチェックして下さい。47 ページ参照（ ブレーキパッドの摩耗の点検 ）。

⚠ 危険

ブレーキ系統からのオイル漏れが見られる場合は車体を使用しないでください。

ブレーキオイルの点検

ブレーキオイル量の点検には：

MIN ＝ 最低レベル

- ◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。
- ◆ ハンドルを切って、ブレーキオイルタンク (1) 内のオイル液面が、窓 (2) の MIN マークに平行になるようにして下さい。
- ◆ ブレーキオイルタンク内のオイルの液面がタンク (1) の窓 (2) の MIN マークの線より上にあることを確かめてください。

⚠ 危険

液面が MIN マークに達していない場合は車体を使用しないでください。

⚠ 注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

オイルの液面が MIN マークの線より下の場合：

- ◆ ブレーキパッドの摩耗度を点検します、47 ページ参照（ ブレーキパッドの摩耗の点検 ）。

ブレーキパッドやディスクの交換が必要でない場合は：

- ◆ アプリリアオフィシャルディーラーに連絡し、ブレーキオイルの補充を依頼してください。**aprilia** 社オフィシャルディーラー

⚠ 注意

ブレーキの効き具合を点検してください。ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたりしたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので aprilia **正規ディーラーにご相談ください。**aprilia **社オフィシャルディーラー**

冷却液

⚠ 注意

冷却液の量が規定レベル“MIN”以下のときは車両を使用しないでください。

冷却液のレベルは2000 km (1250 mi)ごと、長距離走行後にチェックしてください。**aprilia** 社オフィシャルディーラー 2 年ごとに **aprilia** オフィシャルディーラーに冷却液の交換をご依頼下さい。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。
また、皮膚に付いたり目に入ったりすると炎症の原因になります。
冷却液が皮膚に付いたり、眼に入ったりした時は、流水で充分に洗い落とし医師の診察を受けてください。誤って飲み込んだ場合には吐き出してから喉、口を水で充分に洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。

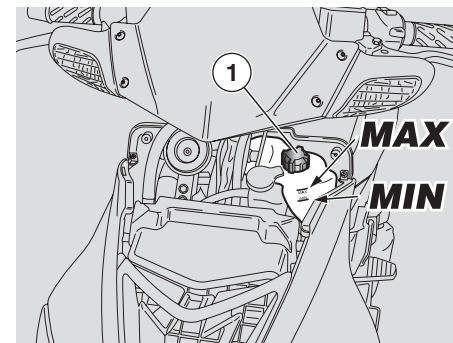
環境汚染を防ぐために、所定の場所以外に液を放置しないでください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

熱くなっているエンジンに冷却液をこぼさないよう注意してください。目にみえない炎を発し火災の原因になります。冷却液のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお薦めします。交換はアプリリアオフィシャルディーラーに依頼してください。aprilia 社オフィシャルディーラー .

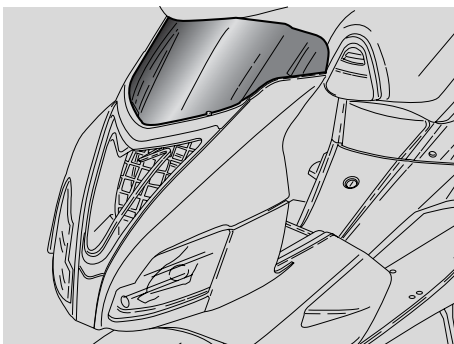
冷却液は水 50%と不凍液 50%で作られています。
この混合率の冷却液は通常の使用温度範囲において最適であり、また防錆効果も良好です。

この混合率の冷却液は蒸発による減少が小さく、したがって補充回数も少なくてすみますので、夏季も含めて一年中この混合率を維持するようお薦めします。

また、蒸発によってラジエーターの中に残るミネラル結晶の発生も少なくなるため、冷却系統の性能を維持することができます。

外気温が0度以下になる場合は頻繁に冷却系統の点検を行なってください。必要ならば不凍液の混合率を(最大60% まで)上げてもかまいません。

エンジンに損傷を与えないよう、冷却液の水は蒸留水のみ使用してください。

⚠ 危険

エンジンが熱い間は冷却液が加圧されており液温も高いのでエキスパンションタンクの栓 (1) を決して外さないでください。冷却液が皮膚や衣服につくとひどい火傷や衣類の損傷をおこすことがあります。

点検と補充

⚠ 危険

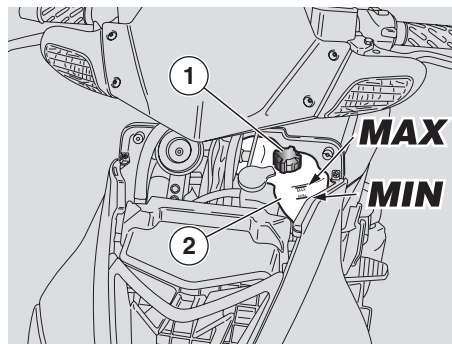
冷却液の点検や補充はエンジンが冷えている時に行なってください。

◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。

注意　車両を床が安定していて平らな場所に停車します。

◆ フロントカバーを取り外します。48 ページ参照（フロントカバーの取り外し）。
◆ 拡張タンク (2) にある液体のレベルがMINとMAXの間にあることを確かめます。

MIN = 最低レベル

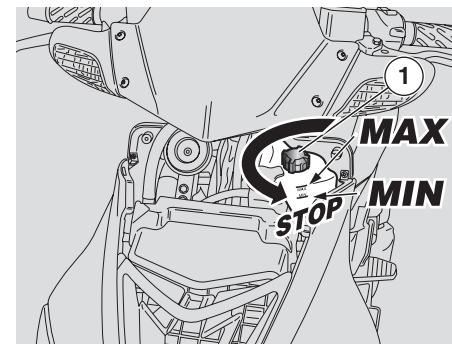
MAX = 最大レベル

そうでない場合は：

◆ キャップ (1) を取らないで、まず緩めます
（反時計方向に回す）。
◆ 中の圧力が抜けるまで数秒待つ。
◆ キャップ (1) を回して取り外します。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。
また、皮膚に付いたり目に入ったりすると炎症の原因になります。
液体があることを確かめるために、指やその他のものを中に入れないで下さい。

⚠ 注意

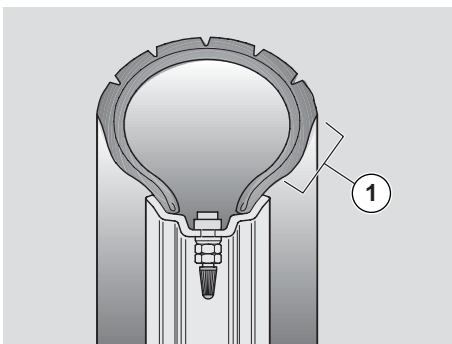
オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

⚠ 注意

補給するときは、"MAX" のレベルを越えないように注意します。越えてしまうと、運転中に、液が外にこぼれ出す恐れかあります。

◆ MAX マークに達するまで冷却液を補給する。65 ページ参照（指定油脂類表）。
◆ 注入口のキャップ (1) を元どおり締めます。

⚠ 注意

冷却液が必要以上に消耗する場合やタンクがすぐ空になる場合は、回路に漏れがあるかどうか確かめてください。修理にはアプリリアオフィシャルディーラーに依頼してください。aprilia 社オフィシャルディーラー.

◆ インスペクションカバーの取り付けの際に、しっかり固定されたかよく確認してください。

タイヤ

このモーターサイクルは、チューブレスタイプのタイヤを装備しています。

⚠ 危険

定期的に室温でタイヤの空気圧を調べます。62 ページ参照（テクニカルデータ）。

タイヤが熱くなっている時には正確な測定はできません。長距離走行前と後には必ずチェックを行なってください。空気圧が高すぎると、通路の起伏に対処できずハンドルを取られたり、クッショが悪くなったりし、カーブでの路面保持性もなくなります。反対に空気圧が低すぎると、タイヤの側面 (1) が路面に接する事があり、タイヤがフレームからずれたり、外れたりする恐れがあり、車両の運転が非常に危険になります。

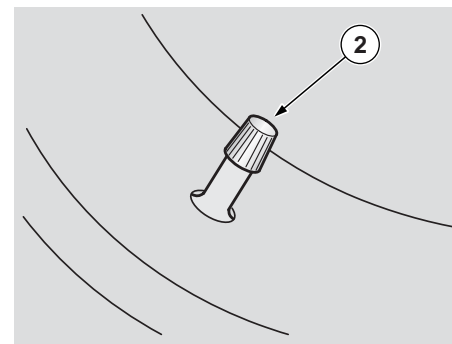
この状態での突然のブレーキングでタイヤが外れる事もあり、カーブで車両を横滑り、または横転してしまう可能性が高くなります。

車両の安全かつフィット感溢れる走行を確保するため、タイヤの表面の状態と消耗をチェックします。

この車両のために使用されている数種類のタイヤは、消耗インジケーターを備えています。このインジケーターには数種類のタイプがあるので、お買い上げになったディーラーに聞き、使い方を調べてください。タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。

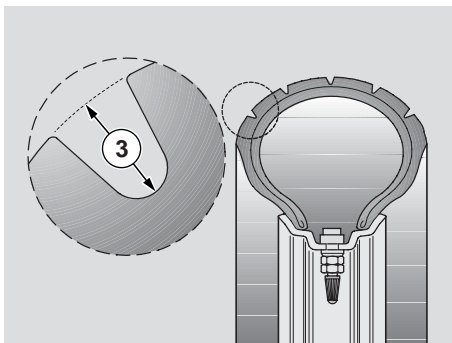
タイヤは古くなると硬化し、たとえ摩耗していなくても路面のグリップ力が落ちます。この場合には直ちにタイヤを交換してください。

全体が摩耗していたり、トレッドに 5 ㎜ 以上の亀裂があるような場合は、タイヤの交換を依頼してください。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。交換用タイヤは当社指定のタイプ、モデルのものを使用してください、62 ページ参照（テクニカルデータ）。それ以外のものを使用すると車両運転時の安定性に欠けることがあり危険です。

チューブレスタイヤのフレームにエアーテューブ付タイヤを利用したり、その反対を行なったりしないでください。

空気漏れを防ぐため、常にバルブキャップ (2) を使用してください。

交換作業、修復、維持管理、バランスを取る作業は、とても重要です。これらのメンテナンスを確実に行うには、十分な装備、知識、経験が必要とされますので、

aprilia 社オフィシャルディーラー社のオフィシャルディーラーか資格および経験を持つタイヤ交換所などで行ってください。

新しいタイヤには、滑りやすいフィルムでカバーされている可能性がありますので最初の数キロ間は注意して走行してください。タイヤ表面に不適当な液体やオイルなどを塗らないでください。

タイヤ摩耗限界・溝の深さ (3)：

フロント........................ 1,5 mm
リア........................... 1,5 mm

タイヤ摩耗限界・溝の深さは車両を使用される国によって値が違いますので、それぞれの国の規制に従ってください。

触媒サイレンサー

⚠ 危険

触媒システム付きの車両は触媒サイレンサーが他の種類のサイレンサーより高温にまで達するため、木屑など発火性の高い物がある所や子供の手に届く所に停車することは大変危険です。注意を払った上でサイレンサーが冷え切るまで待ってください。

触媒システム付き車両は白金 – ロジウム２価タイプのメタリック触媒サイレンサーを装備しています。

そこシステムは排気ガス中に含まれているCO(一酸化炭素)とHC（不燃性炭化水素）を二酸化炭素と蒸気に変換します。

触媒反応のために排気ガスの温度が通常よりあがりますが、これによりオイル粒子を燃焼し、排気ガス量を減少させることが可能となります。

触媒システムが長期間正常に機能し、サーモユニットやエキゾーストシステムの汚れの問題を少なくするには、長距離をエンジン低速度、低回転数で走行することを避けてください。

そのためには、エンジン回転数を数秒間慎重にあげ、落とす、この作業を長距離間に何度か繰り返し行います。
上記にも記したように、エンジン冷却時の発進にはエンジン回転数が触媒反応の起爆点に達することが出来るようにすることが大切です。基本的にはサーモユニットの温度が最低50 ℃に達することが必要で、通常、エンジン作動後数秒でその状態に到達します。

⚠ 注意

触媒システムの損傷を防ぐため、無鉛ガソリンのみを使用してください。

マフラー / 排気マフラー

⚠ 危険

騒音制御システムに手を加えることは、禁止されています。

車両所有者には法律で次のような項目が禁止されています：

- 売却前、所有者に配送する前、または、所有者が使用中のシステムや部品の修復、交換、維持管理、騒音調査以外の取り外しや解除。
- 上記のシステムや部品の取り外し、解除を行った後で車両を運転する。

マフラー／防音排気口、サイレンサー･パイプに錆や穴がないかチェックして、排出システムが正常に働いていることを確かめてください。

排気装置が発する騒音が増大する場合には、即刻 **aprilia** 正規ディーラーまでご相談ください。**aprilia** 社オフィシャルディーラー

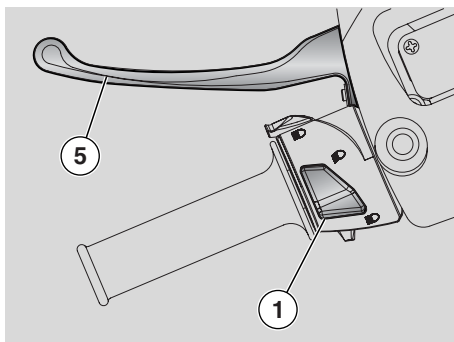
⚠ 危険

起動する前には毎回システムの安全性と正常性を確かめるため事前チェックを右側の表（事前チェック表）を参照しながら行なってください。事前チェック怠った場合には、本人以外にも他人および車両への損傷をきたす可能性があります。

aprilia 社オフィシャルディーラー本書に記されていないトルク、ナット、スクリューについては aprilia オフィシャルディーラーにお尋ね下さい。部品を固定する際の規定外トルクの使用は車両だけでなく、運転する本人および第三者の危険にもつながります。

aprilia 社オフィシャルディーラー各機能コントロール法が明瞭でなかったり、疑問があったり、エラー部品を見つけたりした場合は、aprilia 社のオフィシャルディーラーに、ためらわずに、連絡してください。走行前の点検はライダーの安全のためにとても重要です。短い時間でできますので必ず実施してください。

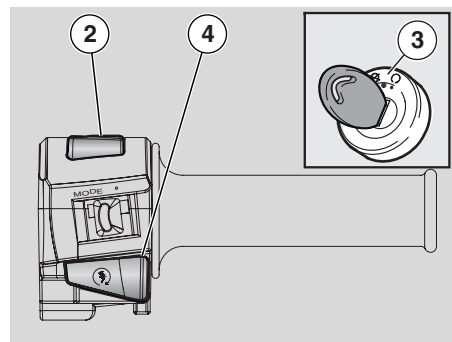
走行前の点検

特徴	ブレーキオイルの点検	ページ
ディスクブレーキ	機能を点検します。ブレーキオイルレベル、および漏れが無いかの点検を行います。ブレーキパッドの摩耗を点検します。必要な場合にはブレーキオイルの補給をします。	26 47
アクセル	全てのステアリングポジションでアクセルがスムーズに働くこと、開閉が完全にできることを調べる。必要な場合は、調節を行なうか、油をさす。	35
ミキサーオイル	必要な場合は、調節を行なうか、補給する。	25
ホイール・タイヤ	タイヤの表面の状態、空気の圧力、着用状態、傷があるかなどをチェックします。タイヤのトレッドの溝に異物がはまった場合は、取り除いて下さい。	30
ブレーキレバー	ブレーキがやさしく働くことを調べる。必要な場合は、接続部分に油をさす。	
ステアリング	左右の回転の仕方が均一で、スムーズに回転し、遊びや緩みがないことを調べる。	
中央・サイドスタンド	スムーズ機能すること、スプリングが常に正常の位置に戻ることをチェックする。必要な場合はジョイント部を潤滑します。	39
固定部品	固定された部分が緩んでいないか調べる。必要な場合は調整、締め直します。	–
燃料タンク	レベルを調べ、必要な場合は，補給を行なう。つまりや漏れがないか調べる。	24 59
冷却液	液体のレベルが MIN と”MAX”の間であることを調べます。必要な場合は冷却液を補充。	28 29
エンジンストップスイッチ (–)	機能が正常に働くことを調べる。	19
ライト、警告ランプ、インジェクション警告ランプ、警告ホーン、電装系	それぞれは正常に機能しているかを点検します。電球を交換するか、必要であれば修理を行います。	55 58
インジェクションポンプ IE	機能が正常に働くことを調べる。	

エンジンの始動

⚠ 危険

排気ガスにはとても有害な一酸化炭素が含まれています。閉め切った室内や換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。上記の警告を無視すると、意識の喪失、および窒息死にまで至る可能性があります。
始動させるときには、車両に乗らないでください。
サイドスタンドを立てた状態での始動は避けてください。

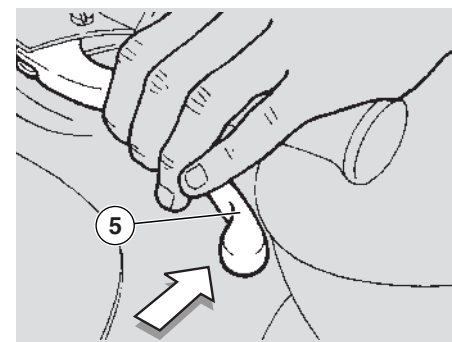
始動方式 セルモーター

- ◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照 (スタンドの立て方).
- ◆ ディマースイッチ (1) が "≣D" の位置にあるか確認します。
- ◆ エンジンストップスイッチ (2) を の位置に押します。
- ◆ イグニッションキー (3) を "○" の位置まで回します。

注意 バッテリーの余分な消費を防ぐためにエンジン停止状態でキーをポジションに置いたまま放置しないで下さい。

- ◆ インジェクションチェックランプが消えるかどうかチェックします。(13 ページ参照) IE 。
- ◆ フロントまたはリア、少なくともどちらかのブレーキ (5) をかけます。5
エンジンが始動しなかった場合は、スタート・リレーに電源が正しく来ていないためです。

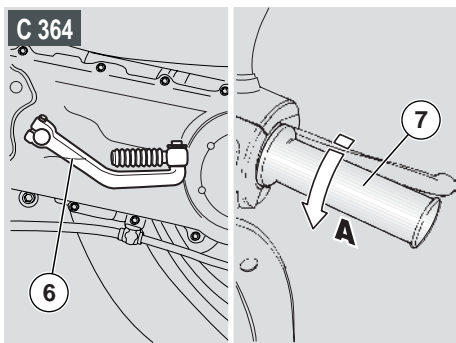
注意 車両を長期間使用しなかった場合は 34 ページ (長期間停止後の始動) に従い作業を行ってください。

⚠ 注意

スターターボタン "ⓢ" (5) を加速せずに押し、エンジンが始動したらボタンをすぐに離します。

注意 バッテリーの消耗を避けるため、スターターボタン "ⓢ" (4) は 5 秒以上押し続けないでください。この間にエンジンが始動しない場合は、10 秒間待ってから再度スターターボタン "ⓢ" (4) を押します。
スターターモーターを損傷する危険がありますので、エンジンが始動した後はスターターボタン "ⓢ" (4) を押さないでください。

注意 エンジンが始動した時点で (特に気温が低い時には)、エンジンが温まるのを待つため、加速をせずに 15 ～ 20 秒待機してください。

- ◆ 発進するまではブレーキを引きながらエンジンを加速しないで下さい。

発進については、35 ページ参照 (発進と走行)。

C 364 キックスタート

- ◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。車両左サイドに立ちます。
- ◆ ディマースイッチ (1) が″≣D″の位置にあるか確認します。
- ◆ イグニッションキー (3) を″○″の位置まで回します。
- ◆ エンジンストップスイッチ (2) を″○″の位置にします。
- ◆ エンジン始動の際、車両のコントロールを失わないために、ブレーキレバー (5) を引き、両ホイールをロックします。
- ◆ キックスターター(6) を右足で押し、すぐに放します。
- ◆ エンジンが始動するまでこの作業を繰り返します。

エンジンが詰まった状態での始動

上記の手続き通りに始動をしなかった場合や、キャブレーターおよび燃料吸入システムにガソリンが回りすぎている場合、エンジンが詰まることがあります。

詰まったエンジンを清掃するには：

⚠ 注意

エンジン作動状態でキックスターターをおさないで下さい。

スロットルグリップ (7) を完全に回した状態で、スターターボタン ″⦾″(4) を数秒間押し、エンジンを空回しさせます。（**ポジション A**）

エンジン冷却時の始動

気温が低い (0 ℃前後) 場合にはエンジン始動が困難な時があります。

その場合は：

- ◆ アクセルグリップ (7) をゆっくり回しながら、5 秒間スターターボタン ″⦾″(4) を押します。（**ポジション A**）

エンジンが始動した場合は

- ◆ スロットルグリップ (7) を放します。
- ◆ アイドリングが一定でない場合は、アクセルグリップ (7) を数回少しだけ回し様子を見ます。

発進については、35 ページ参照 （ 発進と走行）。

エンジンが始動しない場合は

数秒待ち、もう一度エンジン冷却時の始動をやり直します。

- ◆ 場合によってはスパークプラグを取り外し、湿気ていないか点検してください。51 ページ参照（点火プラグ）。
- ◆ もし、スパークプラグが湿気ている場合は、ふき取り、乾かしてください。

スパークプラグを取り付ける前に：

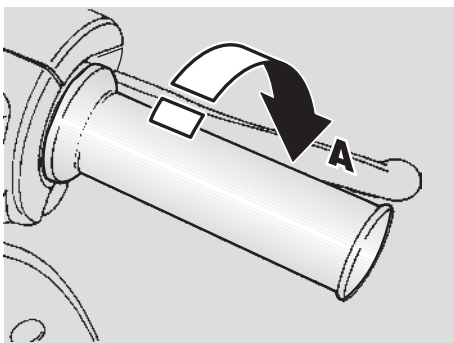
注意 点火プラグの近く、シリンダーの上に、オイルの跳ねを防ぐためのきれいな布を置いてください。

- ◆ スターターボタン ″⦾″(4) を押し、加速せずに約 5 秒間エンジンを始動したままにしてください。

長期間停止後の始動

車両を長期間使用していなかった場合は、燃料回路が空で、始動システムが十分に準備されていない可能性があります。

この場合は：

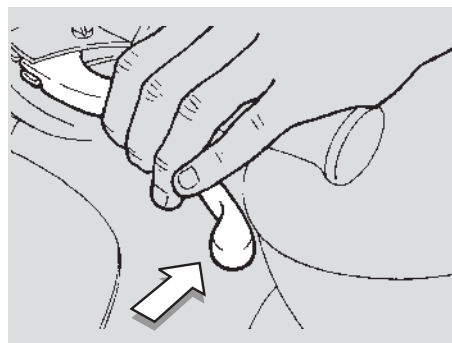
- ◆ 燃料回路が準備されるのを待つため、スターターボタン ″⦾″(4) を約 5 秒間押します。

発進と走行

注意 発進の前に ″安全運転のために″ の章をよく読んでください。5 頁（安全運転のために）参照。

⚠ 注意

走行中、メーターパネル上に燃料警告ランプ ″ ″ がついた場合は、リザーブに入ったことを示します。燃料の補給をすぐ行ってください。24 ページ参照（燃料）

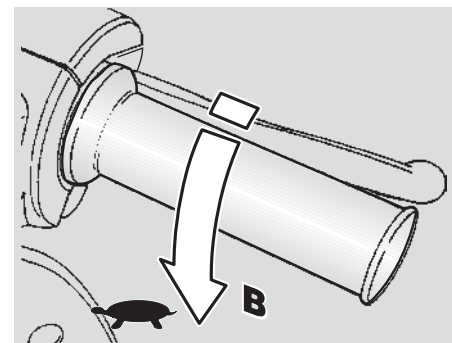
⚠ 危険

パッセンジャーを乗せての運転は許可されている国でのみ可能です。

また運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに乗せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

パッセンジャーが乗る場合には、運転中にライダーのハンドル操作を妨げないように注意を促してください。発信の前に、スタンドが戻っていることを十分に確かめてください。

発進の方法：

- ◆ スロットル（**ポジション A**）を放し、リアブレーキを引き、車両を動かしてスタンドを上げます。
- ◆ 車体にまたがり、安定を保つために、少なくとも片方の足を地面につけておきます。
- ◆ バックミラーの向きを正しく調整します。

⚠ 危険

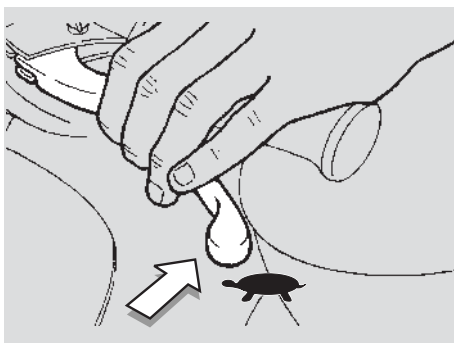
停止した状態でバックミラーの使用法に慣れてください。

- ◆ ブレーキレバーを放し、スロットルをゆっくり回して加速すると、（**ポジション B**）車両が前に進み出ます。

⚠ 注意

エンジンが温まらない間に急激な発進をしないでください。汚染物質の排出と燃料消費を抑えるため、最初の数キロは低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

⚠ 危険

車両のコントロールを失う恐れがあるので、続けて加速や減速を何回も繰り返さないでください。

⚠ 危険

ブレーキをかける場合は、減速をし、平均してブレーキがかかるように、ブレーキをかける力に注意しなから、両方のレバーを閉めます。 フロントブレーキまたはリアブレーキのみを使用すると、ブレーキ力が減少し、ひとつのタイヤがブロックする可能性が高まり、制御力を失う恐れかあります。

傾斜上で停止する場合は、アクセルを最後まで戻し、ブレーキのみを使用して、車両を停止してください。ブレーキを使用せずに、車体が後退しないようにエンジンをふかし続けると、クラッチとバリエーターが過熱し損傷を受けます。

極限での急ブレーキで転倒や横滑りすることを避けるために、カーブに入る前に減速するか、回し速度を保ったままブレーキレバーを軽く握るか、または、軽く加速します。
下り坂でブレーキを連続的に使うとブレーキパッドが過熱し、制動力が弱まります。下り坂では必ずエンジンブレーキを活用し、フロントおよびリアブレーキは断続的に併用してください。エンジンを止めた状態で傾斜を降りないでください。

⚠ 危険

濡れた路面や滑りやすい条件ではゆっくりと走行し、スリップや転倒の原因となる急ハンドル、急ブレーキを避けてください。路上の障害物や路面状態の変化には最大限の注意を払ってください。荒れた路面、鉄道のレール、マンホールの蓋、路上の塗装表示、工事現場の鉄板などは雨に濡れるとスリップしやすく危険です。このような場所では急なハンドル操作をせず、また車体をなるべく傾けずに走行してください。

⚠ 危険

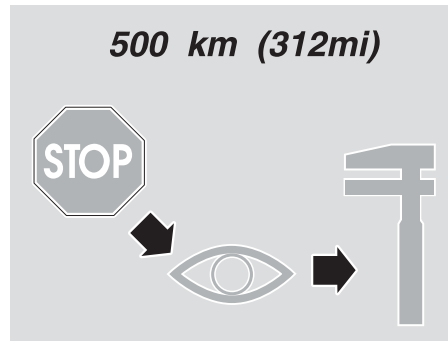
車線変更や方向転換の際には早めにウインカーライトで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。車線変更、方向転換した後は直ちにウインカーライトを消灯してください。

他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。降雨時に大型車が作る水雲は、視界をさえぎり、急激な空気の移動にハンドルを取られる危険性があります。

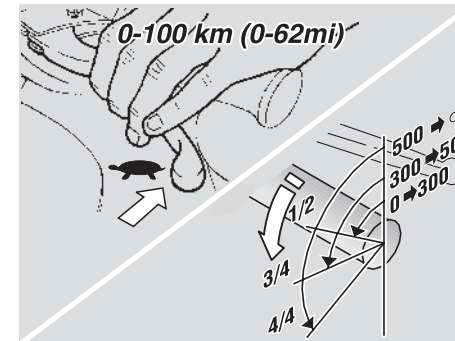
⚠ 危険

エンジンが正常に機能している際に警告ランプ（⚠）およびミキサーオイル警告アイコン ｊが点いた場合は、ミキサーオイルレベルがリザーブに入ったことを示しますので、補充して下さい、25 ページ参照（ミキサーオイル）。

⚠ 注意

冷却液温度インジケーター"⫰"がレッドゾーンにある場合、または警告ランプ（⚠）が点灯した場合にはエンジンを停止し、冷却液のレベルをチェックします。28 ページ参照（冷却液）

慣らし運転

⚠ 危険

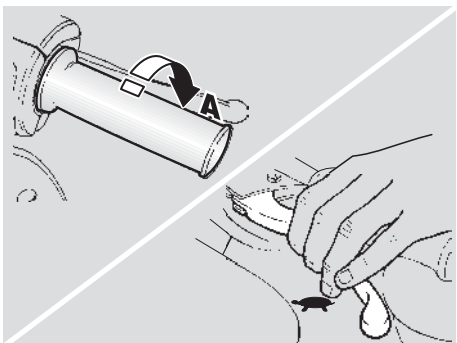
最初の 500ｋｍ（312 mi）走行後、所有者や他人または車両に危害を加えるのを避けるため、定期管理表の中にある " 慣らし運転終了 "の頁にあるコントロールを行ってください。41 ページ参照（定期管理表）

エンジンの慣らし運転（ランニングイン）は、エンジンを長持ちさせ、正しい性能を引き出すためにとても重要です。出来れば起伏の多い道やカーブの多い道を走行してください。

そうする事により、エンジン、サスペンション、ブレーキなどの慣らし運転はより効果的になります。

最初の 500 km(312 mi) 間は、以下に従ってください：

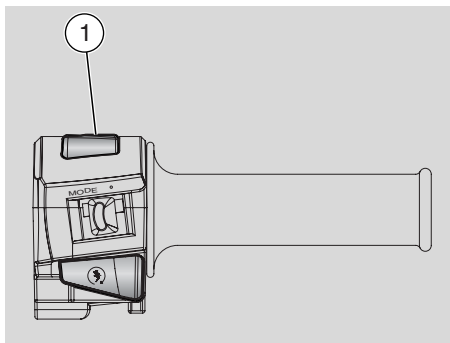
◆ 0～100 km (0～62 mi) 100km (62 mi) を過ぎるまでは、ブレーキのかけ方に十分注意して、急ブレーキや長いブレーキングは行わないで下さい。ディスクブレーキのパッドが十分に馴染ませるために重要です。

◆ 0 ～ 300 km (0 ～ 187 mi)
間はスロットルグリップを半分以上回した状態を出来るだけ保たないようにして下さい。

◆ 300 ～ 500 km (187 ～ 312 mi)
間はスロットルグリップを 3/4 以上回した状態を出来るだけ保たないようにして下さい。3/4

停車

⚠ 危険

可能な限り、急激な停車や減速は避けてください。

◆ アクセルをゆるめ（**ポジションA**）徐々にブレーキをかけ、車両を停止させます。
◆ 一時停止中は、フロントまたはリア、少なくとも一方のブレーキをかけておきます。

パーキング

⚠ 危険

転倒を防ぐため、平面で安定した場所に駐車してください。

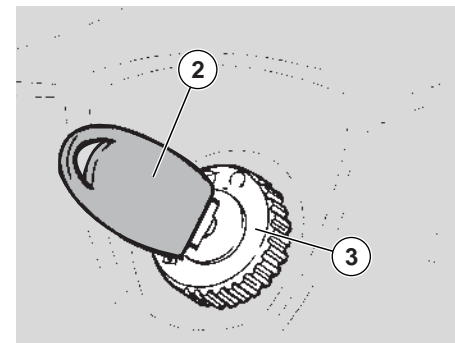
車体を壁などに立てかけたり、地面に寝かせて置いたりしないでください。

車体の高熱を得ている部分が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう注意してください。

エンジンがかかった状態や、イグニッションスイッチにキーを挿し込んだ状態で放置しないでください。

スタンドを使って停車している車両に乗らないで下さい。

◆ 車両を停車します。側面（停車）参照（停車）.
◆ エンジンストップスイッチ（1）を″⊗″の位置にします。（指定された国のみ）

⚠ 注意

エンジンを止めた状態でイグニッションスイッチが″○″の位置にあるとバッテリーが放電する恐れかあります。

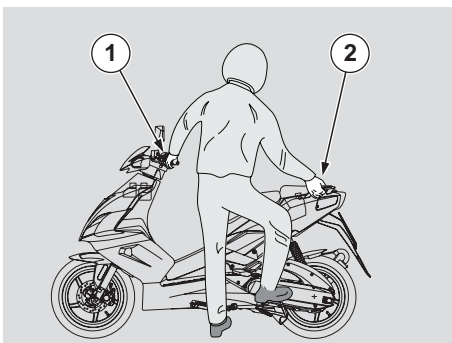
◆ キー（2）をイグニッションスイッチ（3）の″⊗″の位置まで回します。
◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。

⚠ 注意

エンジンが止まった状態では自動保持システムが作動しますので燃料コックを閉める必要はありません。

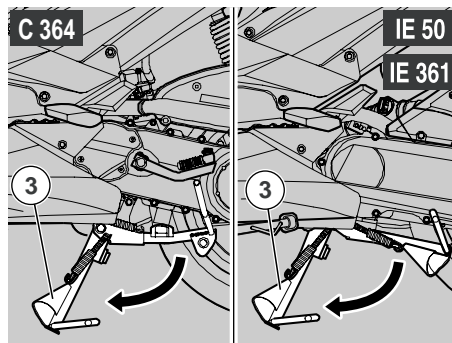
⚠ 注意

鍵をイグニッションスイッチに入れたままにしておかないで下さい。

◆ ステアリングロックをかけます。20 ページ参照（ステアリングロック）。キー（2）を抜き取ります。

スタンドの立て方

38 ページ参照 （ 停車 ）を注意して読んで下さい。

中央スタンド

◆ 左サイドグリップ (1) と左リアグリップ (2) を握ります。
◆ スタンドレバー (3) を下ろす。

サイドスタンド OPT

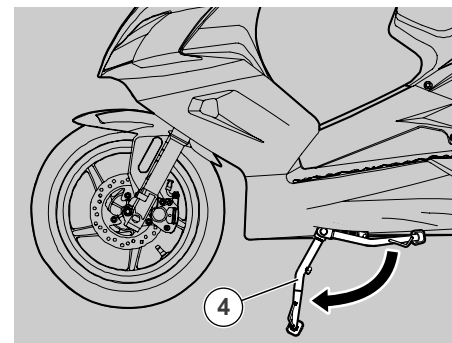
◆ 左サイドグリップ (1) と左リアグリップ (2) を握ります。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。停車の状態から発進の状態に持っていくために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

◆ 右足でサイドスタンド (4) を完全に開くまで踏み下げます。
◆ サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
◆ ハンドルを左側いっぱいに切っておきます。

⚠ 危険

車体が安定しているか確認してください。

盗難防止のために

⚠ 注意

ディスクロックする装置は使用しないでください。この注意が守られなかった場合は、ブレーキシステムを烈しく損傷したり、身体に重大な危害を与える、また場合によっては死に至る事故を引き起こす危険があります。

イグニッションスイッチにキーを挿し込んだままにしないでください。常にステアリングロックをかけてください。

可能であれば、ガレージやガードマンのいる駐車場を利用しましょう。

aprilia OPT 社のケーブル“BodyGuard”（オプショナル）または、その他の盗難防止装置を利用するのもよいかと思われます。

関係書類に手落ちがないか、また税金は納入済みか確認してください。

下の欄に必要事項を記入しておくと、盗難車が発見された場合の所有者確認に役立ちます。

姓：.................................

名：.................................

住所：...............................

....

電話番号： ....

注意 盗難後、車両が発見された場合、ほとんどのケースは、この管理ブックによって所有者が判明しています。

メンテナンス

⚠ 危険

火災の危険があります。電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

車両の維持管理やチェックを行う前には必ずエンジンを切り、キーを抜き、エンジンと排気システムが冷えるのを待ちます。平面の安定した場所で、備えの装備を使用して、車両を持ち上げて行います。

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。

車両の部品などを口に含まないでください。物質によっては、有害でとても危険です。

⚠ 注意

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外し作業の逆の手順で行なってください。メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお薦めします。

通常の維持管理は、所有者自身で行う事ができますが、特別な装備を使用し、技術的知識が必要とされるときもあります。

aprilia 社オフィシャルディーラーアシスタンスサービスや技術的アドバイスが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

aprilia 社オフィシャルディーラー修理や定期点検整備の後には路上での走行テストを **aprilia** 正規ディーラーに依頼されるようお薦めします。

維持管理作業を行った後は、個人的に、“事前チェックを行ってください。32 ページ参照（走行前の点検）。

定期管理表

オフィシャルディーラーにて行なう作業 **aprilia** 社オフィシャルディーラー (ユーザーでも実施可能なもの)

部品	ランニングイン終了 [500 km (312 mi)]	4000km(2500mi) ごと、または 12ヶ月ごと	8000km(5000mi) ごと、または 24ヶ月ごと
バッテリー・電解液レベル	①	①	
点火プラグ	①	③	
キャブレーター – アイドリング (以外 IE)	④	①	
アクセル機能	①	①	
ランプ系システム	①	①	
ストップライトスイッチ		①	
ブレーキオイル (レベルチェック)		①	
ミキサーオイル	500 km (312 mi) ごと : ①		
ミキサーオイル IE	2000 km (1240 mi) ごと : ①		
タイヤと空気圧	毎月 ①		
バッテリーターミナルボルトの締まり	①		
フロント / リアブレーキパッドの摩耗	①	2000 km (1240 mi) ごと : ①	

① = 点検、清掃、調整、潤滑、必要な場合は交換など。② = 掃除、③ = 交換、④ = 調整
車両を雨の多い地方や埃の多い場所で使用する場合は、維持管理の回数を増やして行う。

アプリリアオフィシャルディーラーで行う作業 aprilia 社オフィシャルディーラー

部品	ランニングイン終了 [500 km (312 mi)]	4000km(2500mi) ごと、または 12ヶ月 ごと	8000km(5000mi) ごと、または 24ヶ月 ごと
リアショックアブソーバー			①
コントロール・トランスミッションケーブル	①	①	
ドライブベルト　ト			③
ステアリングチューブベアリング、ステアリングの遊び	①	①	
車輪のベアリング		①	
ブレーキディスク		①	
伸縮タイ	12000 km (7440 mi) ごと : ①		
エアクリーナー	①		②
ガソリンフィルター		12000 km (7440 mi) ごと : ①	
総合車体機能	①	①	
ブレーキシステム / ブレーキディスク	①	①	
ブレーキオイル	2 年ごと ③		
冷却液	2000 km (1240 mi) ごと : ① / 2 年ごと : ③		
マフラー / 排気マフラー		①	
ミキサー / スロットル機能	①	①	
フォークオイル、オイルシール	12000 km (7440 mi) ごと : ①		
トランスミッション (変速機) オイル	③	①	12000km(7440mi)
フロントベルトローラー	12000 km (7440 mi) ごと : ①		
インジェクターの清掃 IE	16000 km (9920 mi) ごと : ②		
フロントバリエーターガイド、ローラー	12000 km (7440 mi) ごと : ③		
リム / タイヤと空気圧	①	①	
ナット、ボルト、ネジ類の締め付け	①	①	
燃料パイプ	4000 km (2500 mi) ごと : ② / 2 年ごと : ③		
ブレーキシステムホースライン	4000 km (2500 mi) ごと : ① / 2 年ごと : ③		
ミキサーオイルホース	①	①	2 年ごと ③
クラッチの摩耗		①	

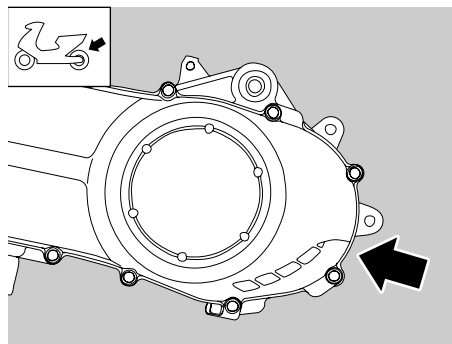
① = 点検、清掃、調整、潤滑、必要な場合は交換など。② = 掃除、③ = 交換、④ = 調整

車両を雨の多い地方や埃の多い場所で使用する場合は、維持管理の回数を増やして行う。

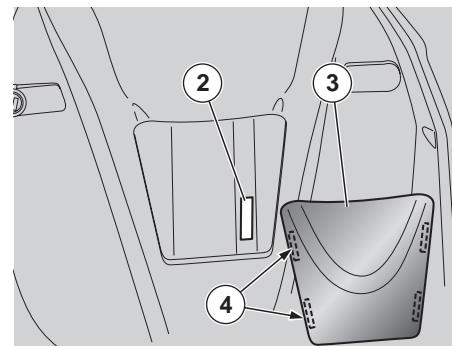
車体認識番号

フレームナンバーおよびエンジンナンバーをこのページに書き控えておくようお薦めします。

フレームナンバーはスペアパーツをオーダーする際に必要な場合があります。

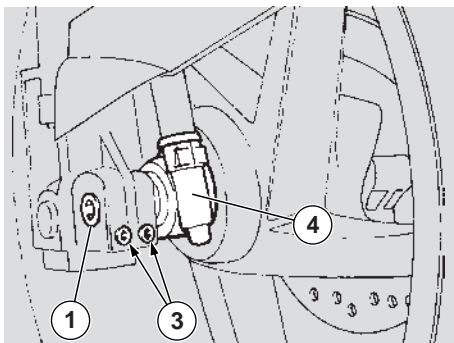
注意 これらの認識番号を改ざんすることは重い刑事処罰および行政処罰の対象になります。特にフレームナンバーを改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

エンジンナンバー

エンジン番号は、後部緩衝器の近くに印刷されています。

エンジン番号 ____________________

フレームナンバー

車体番号（2）は、車体中央のパイプに印刷されています。読み取るにはカバー（3）を取り外す必要があります。

注意 カバー（3）は一方向にしか挿入できません。つめ（4）は側面にあります。

車体番号 ____________________

フロントホイール

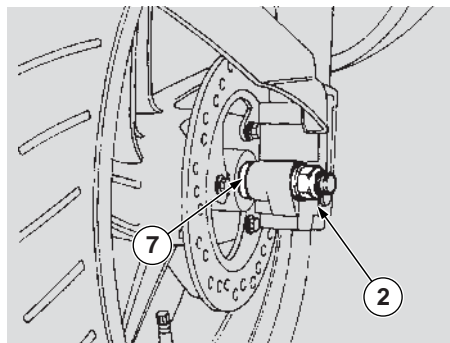
フロントホイールの取り外し

40ページ参照（メンテナンス）33ページ（メンテナンス）を注意して読んで下さい。

注意 高さ210 mm、基礎部分200 x 200 mmのサポートを用意してください。

- ◆ 車体に傷がつかないように厚手の布を敷き、その上に車体を乗せます。台は、車体を乗せた時に、前輪が自由に動くよう、高すぎず、安定した程よい高さでなければならなりません。

⚠ 危険

車体が安定していることを確認してください。

- ◆ 六角スパナーでホイールシャフト(1)をロックしてください。
- ◆ ワッシャーを取り、ナット(2)を緩めて外してください。

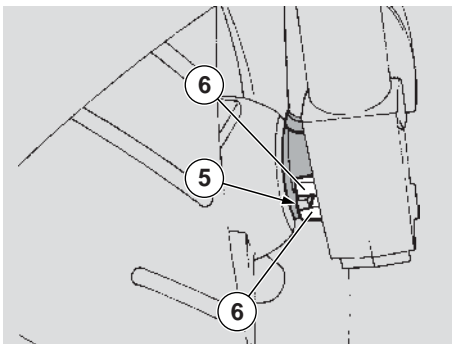
ホイールシャフトナットのトルク：
50 Nm (5 kgm)

- ◆ ホイールシャフトクランプの2本のネジ(3)を緩めます。

ホイールシャフトクランプネジの規定締め付けトルク： 10 Nm (1, 0 kgm).

- ◆ ホイールスピンドル (1) を抜き取るため、まず末端の方から慎重に少しだけ押します。必要であればゴムハンマーなどを使ってください。

注意 後で正確に取り付けられるよう、スピードメータードライブ (4) 及びスペーサーリング(7)の位置を確認しておいてください。

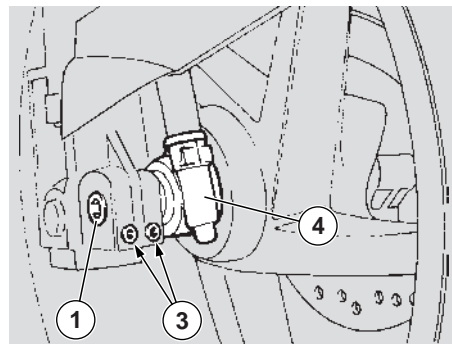
- ◆ フロントホイールを支えながらホイールシャフトを手で抜き取ります。
- ◆ ブレーキキャリパーからディスクを取り外し、気を付けながらホイールをはずします。
- ◆ スピードメータードライブ(4)を切り離します。

取り付け

40 ページ参照 （ メンテナンス ） を注意して読んで下さい。

⚠ 注意

リアホイールの再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

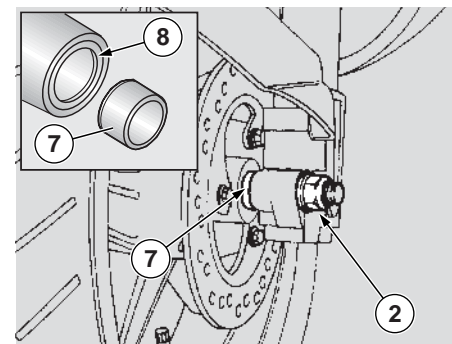
フロントホイールの取り付けの際は以下の手順に従ってください :

◆ ディスクをブレーキキャリパーパッド間に挿入し、ホイールをフォークレッグ間に配置します。
◆ スピードメータードライブ (4) のつめをホイールハブのシートに配置します。
◆ スピードメータードライブの歯 (5) をフォーク上にある 2 本のピン (6) め込みます。
◆ 車体右側 (進行方向から見て) からピン (1) を差し込みます。

⚠ 注意

スペーサーはホイールに残ります。外にでた場合はダストカバー (8) を強制せずに元の場所に押し戻します。

◆ スペーサー (7) をハブと左フォークレッグの間に差し込みます。
◆ ワッシャーを挿入し、六角スパナーでホイールシャフト (1) をロックし、ナット (2) を締め付けます。

ホイールシャフトナットのトルク : 50 Nm (5 kgm)

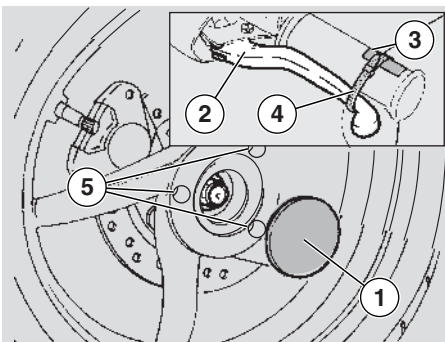
◆ 車体下部からサポートを外します。
◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込んでみます。これによりフォークレッグが正しくセットされます。
◆ ホイールシャフトクランプの 2 本のネジ (3) を締め付けます。

ホイールシャフトクランプネジの規定締め付けトルク： 10 Nm (1, 0 kgm).

◆ 以下の部品に汚れがないことを確かめて下さい :
- タイヤ
- ホイール
- ブレーキディスク

⚠ 危険

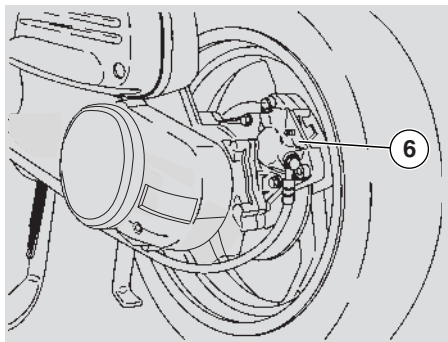
フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

ホイールのセンタリングをチェックしてください。

aprilia 社オフィシャルディーラーライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があるので、各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。

リアホイール

フロントホイールの取り外し

40 ページ参照 （ メンテナンス ）をよく読んでください。

◆ エキゾーストサイレンサーを取り外します、49 ページ参照 （ エキゾーストサイレンサーの取り外し ）。
◆ カバー (1) を外します。
◆ 紙 (3) とプラスチックのバンド (4) を使いリアブレーキレバー (2) を一杯に引いた状態を保ちます。
◆ ワッシャーを回収しながら 3 本のねじ (5) を緩めとります。

ネジ締め付けトルク (5)：
50 Nm (5,0 kgm).

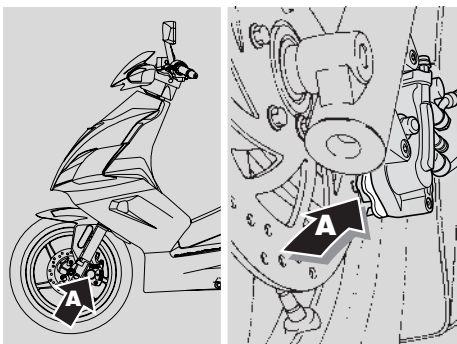
◆ プラスチックバンド (4) を外し、紙 (3) を回収します。
◆ リアブレーキレバーを放します。
◆ リアブレーキマスターシリンダー (6) を傷つけないように気を付けながらホイールを抜き取ります。

注意 **aprilia** オリジナルパーツのみを使用してください。

◆ 取り付け後、以下の部品が汚れていないかチェックしてください：
- タイヤ
- ホイール
- ブレーキディスク

危険

リアホイールの取り付け後は、リアブレーキペダルを繰り返し操作し、ブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。ホイールのセンタリングをチェックしてください。

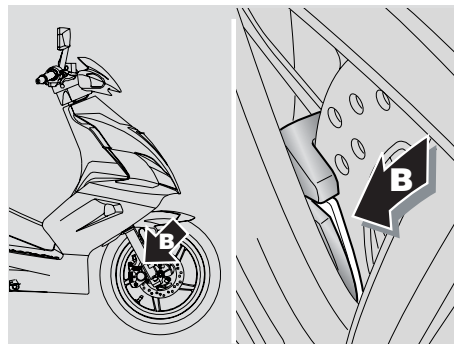
aprilia 社オフィシャルディーラーライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があるので、各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。

ブレーキパッドの摩耗の点検

26 ページ（ブレーキオイル – 注意事項）、（ディスクブレーキ）、40 ページ（メンテナンス）を参照。

注意　以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、前後輪ともに共通です。

最初の 500km(312mi) でまずブレーキパッドの磨耗状態をチェックし、その後は 2000km(1250mi) ごとにチェックを行ってください。ブレーキパッドの摩耗は使用状況、運転の仕方、道路状態などによって変わります。

⚠ 危険

走行前には毎回、必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗を簡単に点検するには：

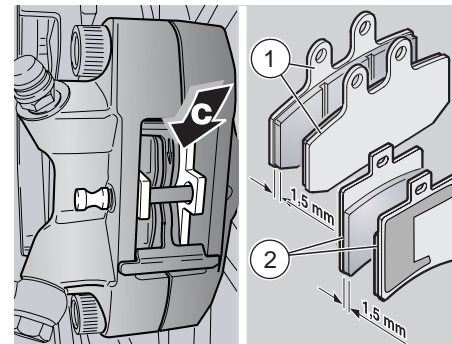
◆ 中央スタンドを使って車体を立てます。
◆ 次のようにしてディスクブレーキとパッドの間を目で確かめます。

ランプと鏡を使って見ます。

フロントブレーキキャリパー

– 左側パッド (A) を車両の前の下の方から見ます。
– 右側パッド(B)を車両の前方上部からリムを通してみます。

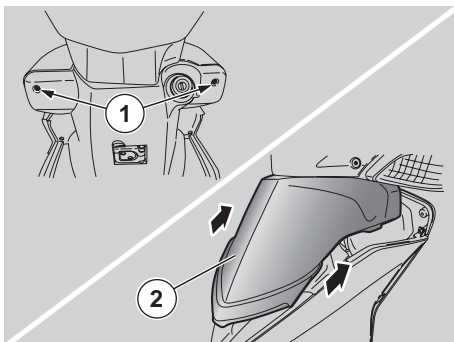
リアブレーキキャリパー

– 両バッド (C) とも後ろの上の方から見る。

⚠ 危険

パッドの消耗が進むと、パッドを支えている金属部分がディスクに触れ、金属音、キャリパーから火花が出、ブレーキ効果、安全性をも保てなくなります。

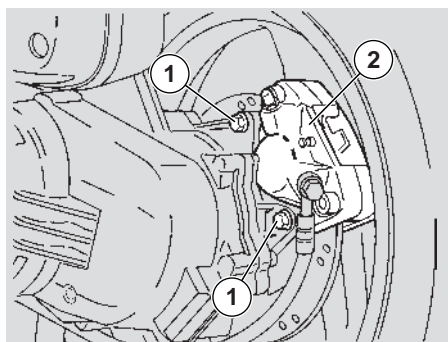
◆ 摩擦材が(たとえフロントまたはリア1個のパッドでも) 1,5 mm程度の厚さまでに摩耗している（もしくは摩耗の目安となる溝が 1 本でも見えなくなっている）場合は両方すぐに交換してください。
– 前部用パッド (1)
– 後部用パッド (2)

⚠ 危険

交換はアプリリアオフィシャルディーラーに依頼してください。aprilia 社オフィシャルディーラー .

フロントカバーの取り外し

40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ（スタンドの立て方）.
◆ 2本のねじ (1) をゆるめて取り外します。
◆ フロントシールドのフロントフェアリングを外すためには上に押す必要があります。
◆ サポートカバー (2) を取り外します。

注意 元に戻すときは、正確に突起部が入るように注意してはめ込みます。

リアブレーキキャリパーの取り外し

40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

⚠ 危険

ディスクが汚れていればパッドも汚れ、その結果、ブレーキ機能に問題が起こることになります。パッドが汚れた場合は、すぐに交換し、ディスクの汚れは、高度の油汚れおとしを使用して拭き取ります。ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や他の人々、また車両の安全を損なうおそれがあります。ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

⚠ 注意

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

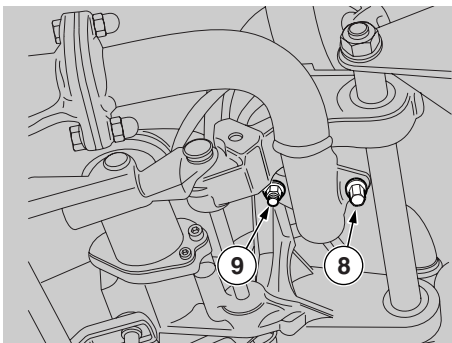
◆ 中央スタンドを使って車体を立てます。39 ページ（スタンドの立て方）。
◆ タイヤを手で回して、ホイールの二つのスポークの間のスペースがブレーキキャリパー (2) の位置にくるようにします。
◆ 2本のねじ (1) をゆるめて取り外します。
◆ オイルレベルキャップを取りはずし、必要であればリアホイールを取り外してください、46 ページ（ リアホイール）。

ブレーキキャリパーネジ締め付けトルク (1): 27 Nm (2,7 kgm).

◆ 取り付けの際には、ネジ (1) に Loctite 243 を塗布してください。

注意 ブレーキキャリパーの再取り付けの際は、2 本のキャリパー (2) 固定ネジ (1) を同じタイプの新品と交換してください。

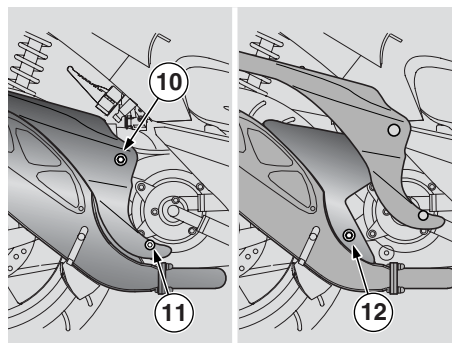
⚠ 注意

ブレーキキャリパーを取り外してから、ブレーキレバーを操作しないで下さい。キャリパーのピストンの位置がずれて、ブレーキオイルの漏れにつながります。そのような場合には aprilia 社オフィシャルディーラー aprilia 正規ディーラーにご相談ください。適切な整備を行ないます。

◆ ブレーキキャリパー (2) をブレーキディスクに注意しながら抜き取ります。

⚠ 注意

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

⚠ 注意

取り付けの際には、ブレーキキャリパーホースが正確にそれぞれのホースガイドにあるかどうか気を付けて下さい。

エキゾーストサイレンサーの取り外し

IE 50

40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

◆ ネジ (8) をゆるめて取り外します。

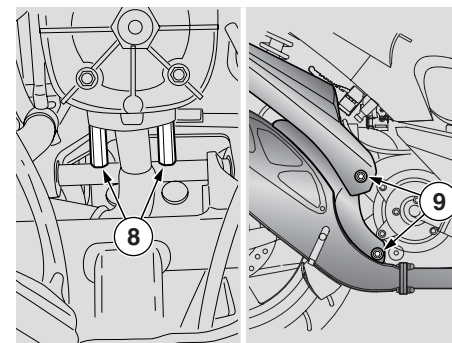
ネジ締め付けトルク (8):
10 Nm (1 0 kgm).

◆ ネジ (9) をゆるめて取り外します。

ネジ締め付けトルク (9):
10 Nm (1 kgm).

◆ サイレンサー固定ネジ (10) をエンジンから取り外します。

ネジ締め付けトルク (10):
27 Nm (2,7 kgm).

◆ エンジンにマッドガードを固定しているネジ (11) を取り外します。
◆ マッドガードを持ち上げます。
◆ サイレンサー固定ネジ (12) をエンジンから取り外します。
◆ サイレンサーを取り外します。

エキゾーストサイレンサーの取り外し

IE 361 C 364

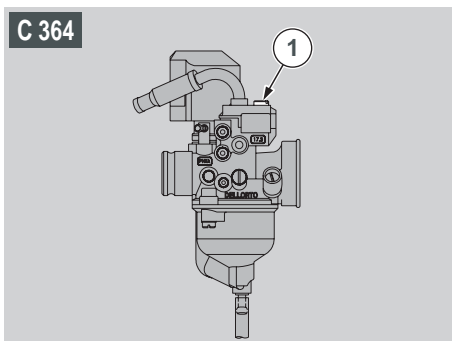
40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

◆ 2 つのナット (8) を緩めて外します。

ナット締め付けトルク (8):
10 Nm (1 kgm).

◆ サイレンサー固定ネジ (9) をエンジンから取り外します。

ネジ締め付けトルク (9):
27 Nm (2,7 kgm).

◆ サイレンサーを取り外します。

アイドリングの調整 C 364

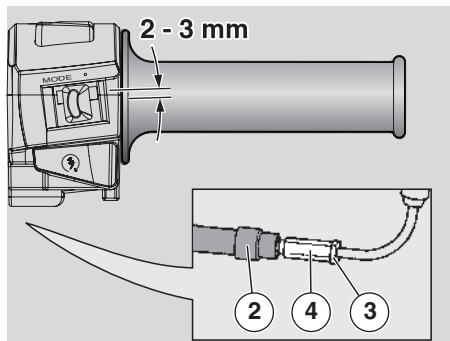
40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

アイドリングの調整は最初の 500 km (312 mi) 後、それからは異常があるたびに行ってください。

この作業を行うには；

- ◆ エンジン温度が通常の走行時温度になるまで何キロか走行してから、エンジンを停止します。
- ◆ バッテリー／ ツールキットトランクカバーを外します、22 ページ参照 （ バッテリー / ツールキットトランク ）。
- ◆ バッテリー ／ ツールキット入れトランクカバーを外します。
- ◆ エレクトロニックタコメーターを点火プラグのケーブルにつなぎます。

⚠ 危険

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

- ◆ エンジンを作動させます。
- ◆ ライトスイッチが“≣D”の位置になっていることを確認します。

エンジンアイドリングは約 1700 ± 100 rpm でなければありません。この場合、後輪は回転しません。
清掃が必要な場合は：

注意 この車両は別のモデルのキャブレーター、スロットルボディを使用することが可能です。アジャスターの配置は図を参照してください。

- ◆ キャブレーター上にあるねじ (1) を調節します。

注意 キャブレーターの調節レベルを変更しないように、エアー調節ネジは触らないで下さい。

締めると (時計回り) 回転数が増えます。

緩めると (反時計回り) 回転数が減ります。

- ◆ 調節終了後、エンジンアイドリングｒｐｍに変更がないか、アクセルグリップを回した後、自動的、スムーズに元の位置に戻るかを確かめてください。

注意 必要な場合は **aprilia** オフィシャルディーラーに連絡してください。**aprilia**社オフィシャルディーラー .

スロットルグリップの調整

40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

スロットルコントロールの遊びはハンドル上約 2- 3 mm 間でなければなりません。

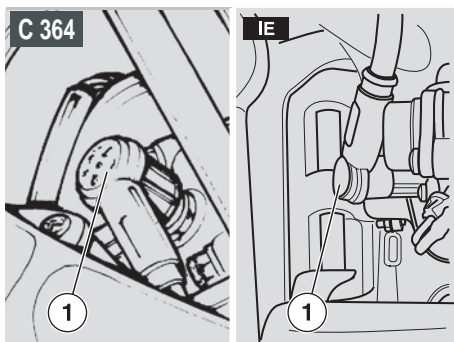
遊びの調整には：

- ◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。
- ◆ 保護ラバー (2) をずらします。
- ◆ ナット (3) を緩めます。
- ◆ スロットルコントロールケーブル先端にあるアジャスター (4) で調節します。

調整が終わったら：

- ◆ ナット (3) を締め、アジャスター (4) をロックし、保護部品 (2) を取り付けます。

⚠ 危険

遊びを調整した後は、ハンドルをどの角度に回してもアイドリング回転数が常に一定であること、また、スロットルグリップは手を離すとスムーズに定位置に戻ることを確認してください。

点火プラグ

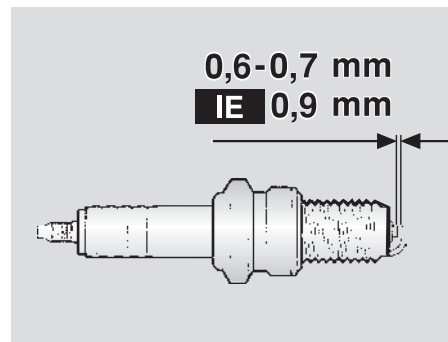
40 ページ（メンテナンス）を注意して読んで下さい。

スパークプラグは最初の 500 km (312 mi) 走行後に点検し、また、4000km (2500mi) 走行ごとに交換してください。

それ以外にも定期的にスパークプラグを取り外して付着したカーボンなどを取り除き、必要な場合は交換してください。

スパークプラグの取り外しと清掃：

⚠ 危険

火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびマフラーが常温に戻ってから行なってください。

◆ バッテリートランクカバーを取り外します。
◆ バッテリー / ツールキット入れトランクカバーを外します。
◆ スパークプラグキャップ (1) を取り外します。
◆ 汚れを点火プラグからよく取り除き、ツールキットにあるスパナーを利用して、汚れが入らないように注意しながら、点火プラグを緩めて抜き取る。
◆ 電極と中央の陶器部分にカーボンなどの汚れがついてないかよく確認し、必要の場合は、点火プラグ専用クリーナーや鉄線、金属ブラシなどを使用してきれいにする。
◆ エンジンに埃を入れないために、空気を強く吹き付けて埃を取る。
◆ もし絶縁部にひび割れなどかある場合は、電極が侵食したり、埃がたまったりするので、交換が必要です。
◆ 電極間の距離を測ります。
◆ この距離は0,6 – 0,7 mm、IE 0,9 mmでなければなりません。それ以外の場合は、電極を慎重に押し曲げて、距離内に調整します。
◆ ワッシャーの状態も点検してください。ワッシャーを取り付け、ネジ山をいためないよう注意深くスパークプラグを手でねじ込んでください。
◆ 最後に、工具キットにあるプラグレンチで 1/2 回転させワッシャーを押さえつけます。

点火プラグ締め付けトルク：
20Nm(2kgm)

⚠ 注意

スパークプラグがしっかり締められていないと、エンジンがオーバーヒートして重大な損傷を受けることがあります。必ず推奨スパークプラグのみを使用してください。62 ページ参照（テクニカルデータ）。それ以外のスパークプラグではエンジンの性能が損なわれたり寿命が短くなったりします。

◆ スパークプラグキャップ (1) を取り付けます。
◆ バッテリー / ツールキット入れトランクカバーを取り付けます。
◆ バッテリートランクカバーを取り付けます。

バッテリー

40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

⚠ 危険

火災の危険があります。電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

バッテリーの電解液は、有害かつ腐食性で硫酸を含んでいるため、皮膚に接触すると火傷する可能性があります。作業時は防護服を着用し、顔や目もプロテクターを使用してください。皮膚に電解液がついた時は、大量の水で洗い流してください。

目に電解液が入った時は、大量の水で最低 15 分間洗い続け、直ちに、眼科医に見せてください。

飲み込んでしまった場合には、大量の水か牛乳を飲み、それから、酸化マグネシア液か植物性オイルを飲み、直ちに医者に見せてください。

バッテリーは爆発性ガスを生ずるので、火花、タバコなど加熱物は遠ざけてください。

バッテリー充電中や使用中は周囲の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

車両を傾け過ぎ、バッテリー電解液をこぼさないように注意してください。

⚠ 注意

バッテリーケーブルの極性を決して逆にしないでください。部品を損傷する危険がありますので、バッテリーの取り付け及び取り外しは、イグニッションスイッチを"⊗"の位置にして行ってください。

バッテリーケーブルを接続するときは (+) を先に、(−) を後に接続します。

ケーブルを外すときは逆の順序で外します。

バッテリー液は腐食性です。

特にプラスチック部分に塗ったり、流したりしないよう気を付けてください。

バッテリーを長期間使用しない時

バッテリーを 15 日間以上使用していない場合､硫化を防ぐために､充電が必要です。53 ページ参照 （ バッテリーの充電 ）:

◆ バッテリーを外し､52 ページ参照（ バッテリーの取り外し ）、涼しく、乾燥した場所に保管する。

特に冬期や長期間使用しない場合には、バッテリーの劣化を防ぐため定期的に（毎月 1 回程度）バッテリーの充電状態を点検し充電してください。

◆ 通常のバッテリーチャージャーを使用して完全に充電する｡53 ページ参照（ バッテリーの充電 ）

車両に搭載したままの場合は、バッテリーケーブルを電極から外してください。

バッテリーの取り外し

52 ページ参照 （ バッテリー ）を注意して読んで下さい。

◆ バッテリー／　ツールキットトランクカバーを外します、22 ページ参照 （ バッテリー / ツールキットトランク ）。
◆ バッテリー ／ ツールキット入れトランクカバーを外します。
◆ イグニッションスイッチが "⊗" の位置になっていることを確認します。
◆ ケーブルはマイナスケーブル (−)、プラスケーブル（ 赤 ）(+) の順でバッテリーから取り外します。
◆ バッテリー息つぎパイプを外します。
◆ バッテリーを完全に取り外し､平面かつ涼しく、湿気の少ない場所に置く。

⚠ 危険

取り出したバッテリーは安全で子供の手の届かない場所に保管してください。

◆ ツールキット入れトランクを取り付けます。
◆ バッテリー ／ ツールキットトランクカバーを取り付けます、22 ページ参照（バッテリー/ツールキットトランク）。

バッテリーの取り付け

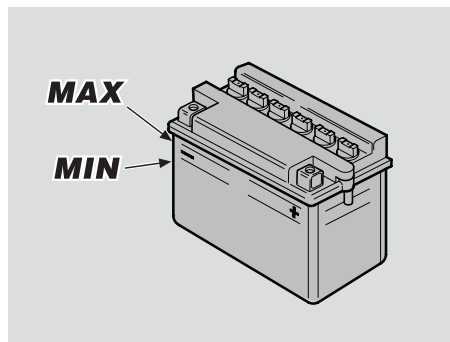
52 ページ参照 （ バッテリー ）を注意して読んで下さい。

- バッテリー／　ツールキットトランクカバーを外します、22 ページ参照 （ バッテリー／ツールキットトランク）。
- バッテリー ／ ツールキット入れトランクカバーを外します。
- バッテリーを元の場所に戻します。
- バッテリー息つぎパイプをつなげます。

⚠ 注意

硫酸の蒸気を避け、電気システム、塗装部、ゴム製部品などを腐食させないために、バッテリー息継ぎパイプを必ず接続する。

バッテリー内の圧力が上がり損傷の危険がありますので、ブリーザーパイプを押しつぶさないよう気を付けて接続してください。

- ケーブルをプラス（赤）(+)、マイナス(−) の順でつなげて下さい。
- ターミナルおよび電極に特製グリースまたはワセリンを塗布します。
- ツールキット入れトランクを取り付けます。
- バッテリー／　ツールキットトランクカバーを取り付けます、22ページ参照（バッテリー／ツールキットトランク）。

バッテリー電解液レベルのチェック

52 ページ参照（バッテリー）を注意して読んで下さい。

- バッテリーをバッテリーハウジングから外します、52 ページ参照（バッテリーの取り外し）。
- 液体のレベルが、バッテリーの側面に書かれているMINとMAXとの間であることを確認する。

そうでない場合は：

- それぞれのキャップを緩め、取り外します。

⚠ 注意

電解液の補給には、必ず蒸留水を使用し、ＭＡＸ のマークを超えないように注意します。

- 蒸留水を加えレベルを調整します。

⚠ 注意

補充の後はキャップを元の位置に取り付けます。

- キャップを取り付けます。

バッテリーの充電

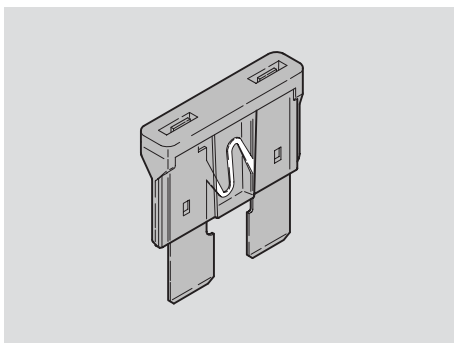
52 ページ参照（バッテリー）を注意して読んで下さい。

- バッテリーをバッテリーハウジングから外します、52 ページ参照（バッテリーの取り外し）。
- それぞれのキャップを緩め、取り外します。
- バッテリー電解液レベルをチェックします。53 ページ参照（バッテリー電解液レベルのチェック）
- バッテリーを充電器に接続します。
- アンペアがバッテリーの 1/ 10 のチャージャーを使用します。
- 充電終了後、もう一度電解液レベルを調べ、必要な場合は、蒸留水を補給します。
- キャップを取り付けます。

⚠ 注意

充電後もしばらくの間ガスが発生し続けますので、バッテリーは充電器から取り外した後 5 ～ 10 分程度待ってから取り付けてください。

⚠ 危険

バッテリー充電中や使用中は周囲の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

ヒューズの交換

40ページ（メンテナンス）を注意して読んで下さい。

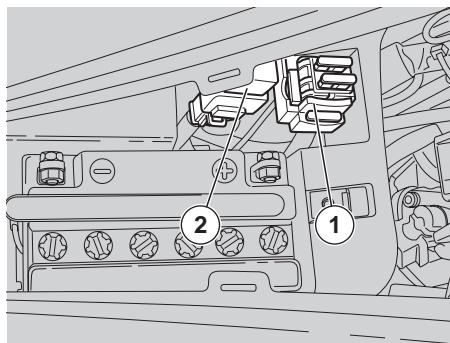
⚠ 注意

欠陥のあるヒューズを修理して使わないで下さい。規格に合ったヒューズ以外は決して使わないでください。ショートした場合には電気系統に損傷を与えるだけでなく火災の危険もあります。

注意 ヒューズかよく切れる場合は、回路がショートしているか、オーバーヒートしている可能性があります。 この場合は **aprilia** オフィシャルディーラーに相談してください。**aprilia** 社オフィシャルディーラー

電気システムが正常に働かない、エンジンの始動ができないなどの場合は、フューズをチェックする必要があります。

エンジンオイルの点検は次の手順で行なってください：

◆ 思いがけないショートを避けるため、イグニッションスイッチを ″⊗″ の位置に回します。

◆ バッテリー／　ツールキットトランクカバーを外します、22ページ参照（バッテリー／ツールキットトランク）。
◆ バッテリー ／ ツールキット入れトランクカバーを外します。
◆ ヒューズを一つずつ取り出し、フィラメントが切れていないか点検します。
◆ 可能であれば、交換する前にフューズが切れた原因を発見します。
◆ ヒューズが切れている場合は同じ電流容量の新しいヒューズに交換します。

注意 スペアーのフューズを使用した場合は、すぐに同じタイプの物を補充してください。

◆ ツールキット入れトランクを取り付けます。
◆ バッテリー／　ツールキットトランクカバーを取り付けます、22ページ参照（バッテリー／ツールキットトランク）。

C 364 ヒューズの配置

ヒューズ 7,5 A (1) – イグニッションスイッチから：
– キー下部ダッシュボード電源
 1. ストップライト
 2. ミキサーオイルレベルセンサー
 3. フューエルセンサー
 4. 冷却液温度センサー
– ターンインジケーター回線
– 警告ホーン
– 自己診断システム回線

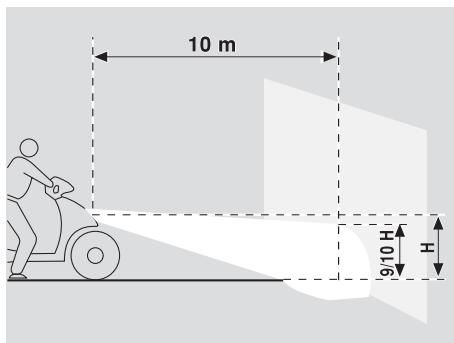
ヒューズ 15 A (2) – バッテリーから：
– 調整／充電回線
– イグニッションスイッチ
– 永久プラス電源～ダッシュボード

IE 361 ヒューズの配置

ヒューズ 10 A (1) – イグニッションスイッチから：
– ライト系
– ハイ／ロービームリレー
– 警告ホーン
– 自己診断システム回線

ヒューズ 15 A (2) – バッテリーから：
– 調整／充電回線
– イグニッションスイッチ
– 永久プラス電源～ダッシュボード
– インジェクションリレー
– エンジンストップスイッチ
– キー下部ダッシュボード電源
 1. ストップライト
 2. ミキサーオイルレベルセンサー
 3. フューエルセンサー
 4. 冷却液温度センサー

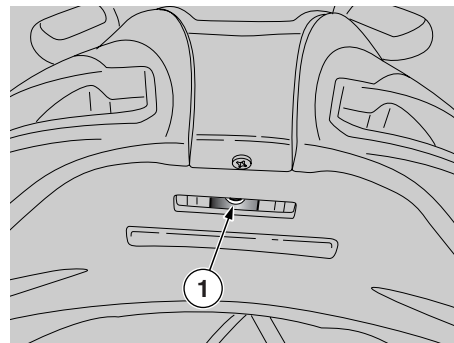
IE 50 ヒューズの配置

ヒューズ 10 A (1) – イグニッションスイッチから：
– 警告ホーン
– 調整／充電回線
– ストップライト
– インジェクションリレー
– エンジンストップスイッチ
– キー下部ダッシュボード電源
 1. 方向指示灯
 2. ミキサーオイルレベルセンサー
 3. フューエルセンサー
 4. 冷却液温度センサー

ヘッドライトの垂直光軸調整

注意 車体を使用する国の現行の法規定に従って、ヘッドライト調整には特定の作業を行って下さい。

イタリアでの規則：

手早くかつ正確にヘッドライト角度を確認するには車両を地面が平面で、垂直な壁などから 10m 離れた場所に停車します。ロービームを点け、車両にまたがり、ライトの角度が水平より少し下を向いている状態 （ 車両高さの 90%程度 ）であるかを確認します。

◆ ネジ (1) を調整するにはドライバーを使います。
締め込む方向 (時計回り) に回すと光軸が下向きになります。
緩める方向 (反時計回り) に回すと光軸が上向きになります。

電球

40 ページ （ メンテナンス ）を注意して読んで下さい。

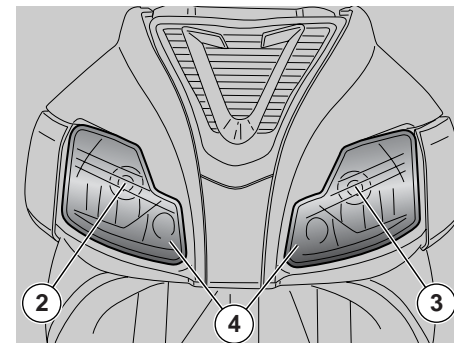
⚠ 危険

火災の危険があります。電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

⚠ 注意

電球を交換する前に、中央スタンドを使い車両を停車し、イグニッションスイッチをの位置にし、エンジンが冷えるまで待ちます。また、きれいな手袋をはめるか、きれいな乾いた布で電球を持つようにしてください。

電球の過熱や破裂の原因となりますので、電球を指紋などで汚さないでください。損傷を避けるために、電球を素手で触った場合には、アルコールを使い指紋などの汚れをふき取ってください。

配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

フロントライトの電球の交換 (ハイ / ロービーム)

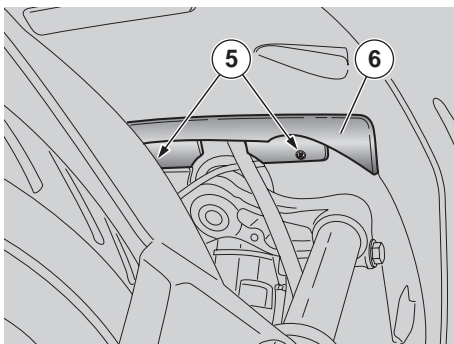
55 ページ参照 （ 電球 ）を注意して読んで下さい。

ヘッドライトには以下の電球が取り付けられます。

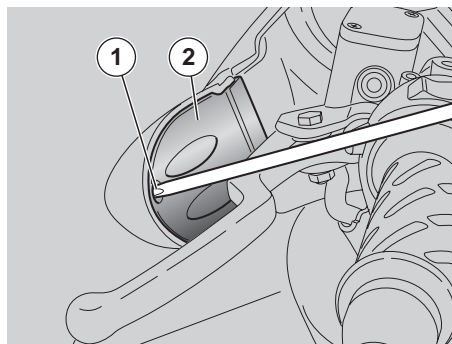
- ロービーム電球 1 個 (2)、ハイビーム電球 1 個 (3)、パーキングランプ電球 2 個 (4) (CH - USA バージョンのみ).

ハイビーム / ロービーム電球

交換の手順 ：

◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照 (スタンドの立て方)。
◆ 2 本のネジ (5) を取り外します。
◆ カバー (6) を外します、(取り付けの際には歯に気を付けます)。
◆ 時計方向に 1/4 回転回し、配線ごと電球を取り出します。

⚠ 注意

電球を取り出してから、固定用つめを持ち上げ配線を切り離します。

◆ 新品の同じタイプの電球を正しく取り付けます。

ターンインジケーター電球の交換

55 ページ参照 （ 電球 ）を注意して読んで下さい。

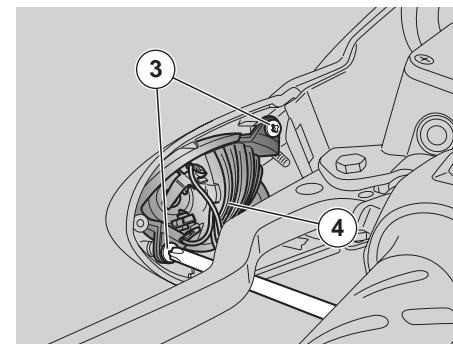
交換の手順 ：

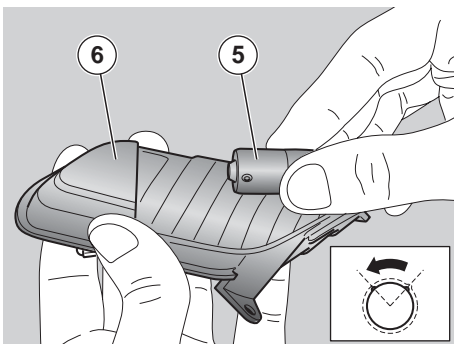
注意　次の項目は片方のインジケーターについて書かれていますが、両方のインジケーターに有効です。

◆ ネジ (1) をゆるめて取り外します。

⚠ 注意

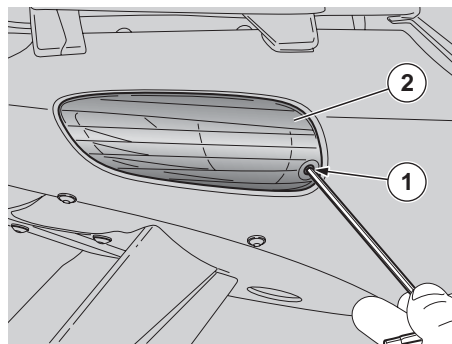
取り扱いには、十分注意してください。突起部を傷つけないように注意してください。

◆ カバー (2) を外します。
◆ 2本のねじ (3) をゆるめて取り外します。
◆ ターンインジケーター (4) をセットで取り外します。
◆ 透明プロテクタースクリーンを外します。
◆ 電球 (5) を軽く押し反時計回りに回します。
◆ ウィンカーライト電球を抜き取ります。

注意　電球の 2 本のガイドピンをソケット (6) のガイドに合わせながら、電球を正しく挿入してください。

◆ 新品の同じタイプの物を正しく取り付けます。

取りつけには：

注意　取り付けの際はレンズ(2)がスロットに正しく取り付けられていることを確認します。

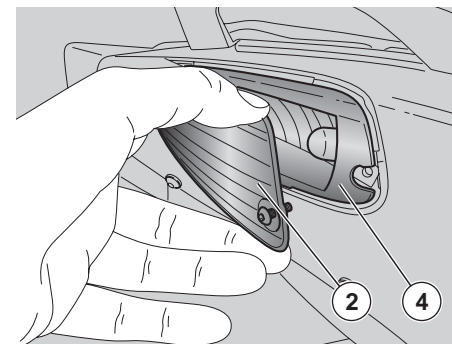
⚠ 注意

保護スクリーン (2) とターンインジケーターセット (4) を傷つけないように (1) と (3) のネジをゆっくり気を付けて締めます。

リアターンインジケーター電球の交換

55 ページ参照 （ 電球 ） を注意して読んで下さい。

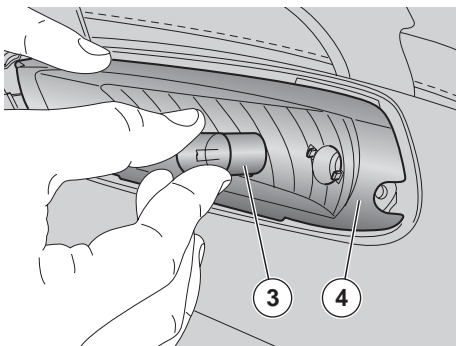
◆ スタンドに車両を配置します。 39 ページ参照（スタンドの立て方）.

注意　電球を交換する前に、ヒューズ点検を行ってください。54ページ参照（ヒューズの交換）。

◆ ネジ (1) をゆるめて取り外します。

注意　ターンインジケーターレンズを取り外す際は、はめ合せ用の突起部を損傷しないよう注意してください。

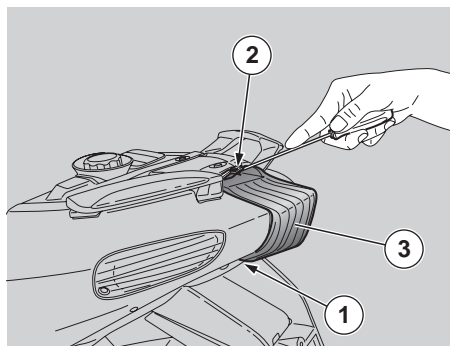
◆ ウインカーカバー (2) を取り外します。
◆ ウィンカーライト電球 (3) を軽く押し込んで反時計回りに回します。
◆ ウィンカーライト電球 (3) を抜き取ります。

注意　電球の 2 本のガイドピンをソケットのガイドに合わせながら、電球を正しく挿入してください。

◆ 新品の同じタイプの物を正しく取り付けます。

注意 ソケット (4) 外れてしまった場合は、もう一度正確にねじとソケットがかみ合うようにしてはめ込みます。

取りつけには：

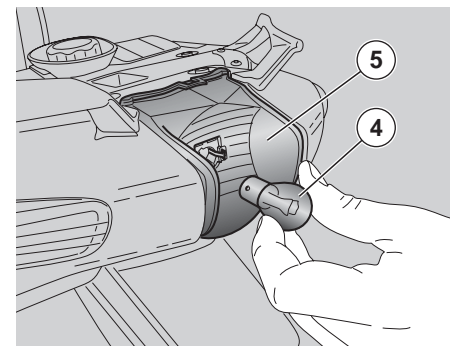
注意 再取り付けの際はカバーがスロットに正しく取り付けられていることを確認します。

注意 また、ウィンカーレンズを損傷しないよう、ネジ (1) は強く締め過ぎないでください。

テールランプ / ストップランプの電球の交換

55 ページ参照 （ 電球 ）を注意して読んで下さい。

注意 電球を交換する前にヒューズやSTOP ランプスイッチが機能するかを点検してください、54 ページ参照 （ ヒューズの交換）。

交換の手順 ：

- ◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。
- ◆ ネジ (1) を回して取り外します。
- ◆ 固定用つめ (2) を持ち上げるにはドライバーを使用して下さい。

注意 ターンインジケーターレンズを取り外す際は、はめ合せ用の突起部を損傷しないよう注意してください。

- ◆ 保護カバー (3) を取り外します。
- ◆ 電球 (4) を抜き取ります。

注意 電球の 2 本のガイドピンをソケット (4) のガイドに合わせながら、電球を正しく挿入してください。

- ◆ 新品の同じタイプの物を正しく取り付けます。

⚠ 危険

輸送前に、燃料タンクとキャブレーター内の（キャブレーターのバージョンの場合は）（燃料の抜き取り）オイルを抜き取る必要があります。下記「燃料の抜き取り」を参照し、しっかり乾いているかをチェックしてください。

車両は運送中、燃料、オイル、冷却液などがこぼれないように、垂直に立て、しっかりと固定されていなければなりません。

⚠ 危険

故障した場合は、自分で車両を引こうとせず、専門の業者に助けを呼んでください。

燃料の抜き取り

（キャブレーター付きバージョンのみ）

24 ページ参照（燃料）を注意して読んで下さい。

⚠ 危険

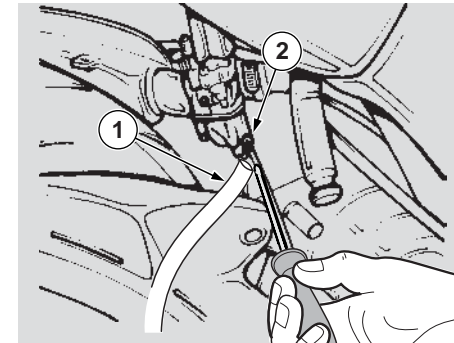
火災の危険があります。エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。燃料の蒸気は人体に有害です。
作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。燃料の蒸気を吸い込まないよう注意してください。
作業場では煙草を吸ったり裸火を扱ったりしないでください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

◆ スタンドに車両を配置します。39 ページ参照（スタンドの立て方）。
◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。
◆ リアマッドガードを取り外します。
◆ タンク内にある燃料を十分収められる大きさの容器を用意し、車両の左側に置く。
◆ 燃料タンクのキャップを外す。
◆ 燃料を抜き取るには、手動ポンプかその様な物を使用する。

⚠ 危険

燃料を空にした後は、キャップを必ず閉めてください。

◆ 燃料タンクのキャップを取り付けます。

キャブレーターを空にするには：

◆ ホース (1) の先を容器に入れます。
◆ フロートチャンバーの下部にあるドレンスクリュー (2) を緩め、キャブレーターを開けます。
燃料が出終わった時点でキャブレーターは空になります。
◆ ねじ (2) をきっちりと締め付けます。

⚠ 危険

燃料を補充際に燃料が漏れないように、ネジ (2) をしっかり締めます。必要な場合は aprilia オフィシャルディーラーに連絡してください。aprilia 社オフィシャルディーラー。

清掃

次のような特殊な地域や条件下で車両を使用した場合は頻繁に清掃を行なってください：

- ◆ 環境汚染地域（市街地、工場地区）。
- ◆ 塩分や湿度の高い地域（海辺、高温、高湿の気候）。
- ◆ 特別な環境·季節 （ 冬季は道路に塩や凍結防止剤が撒かれた場合など）。
- ◆ 車両に溜まった埃や車のタール、虫、鳥の糞などをそのままにしておかない。
- ◆ 木の下に車両を駐車しない。
  季節によっては、樹脂や実や葉など塗装部分に損害を起す物が落ちてきます。

⚠ 危険

洗車後はブレーキシステムの摩擦面に残った水分のせいでブレーキの効きが悪くなることがあります。事故防止のために早めにブレーキをかけるようにしてください。何度もブレーキを使用し、通常の状態に戻るようにしてください。

走行前の予備点検を行ないます。32 ページ参照（走行前の点検）。

塗装部分の汚れや泥を取り除くには、低圧のウォータージェットを使用する必要があります。汚れた部分をよく濡らし、水とシャンプーを含んだ（水に対し 2 ～ 4%の割合のシャンプー）スポンジで拭き取ります。その後、よく水をかけ、水分をシャモア革で拭き取ります。エンジンの外部は油落とし、ブラシ、スポンジ、布などを使って清掃してください。

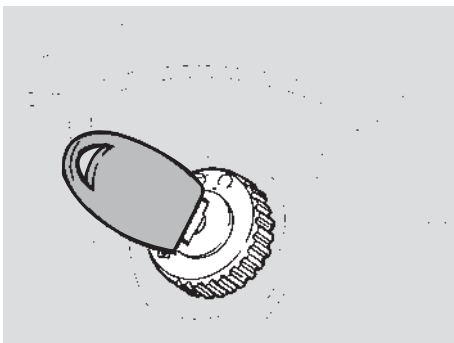
⚠ 注意

ライト類の洗浄は、中性洗剤及び水を含ませたスポンジで表面を丁寧にこすり、水で充分にすすいで下さい。シリコンワックスで磨き上げるときは、よく洗車・乾燥した後にしてください。夏の日光下での洗車を行わないでください。洗い流す前にシャンプーが乾いてしまい、塗装部分に損害をきたす可能性があります。 車体のプラスチック部品の清掃には、40 ℃を超える液体は使用しないでください。

次の部分に高圧ウォータージェット、エアージェット、蒸気ジェットなどを使わないでください：車輪ハブ、両ハンドル上のコントロールユニット、ベアリング、ブレーキポンプ、計器とインジケーター、マフラー、フロントトランク·ツールキット、イグニッションスイッチ / ステアリングロック、ラジエーター、燃料タンクのキャップ、ライト系、電源類。

ゴム部品、プラスチック部品、シートなどの洗浄には中性石鹸を使用してください。アルコール、溶剤などは使わないでください。

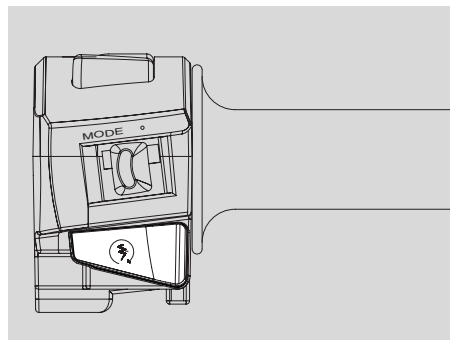
⚠ 危険

シートにワックスなどを塗ると滑って危険なので、使用しないでください。

長期間の未使用

長期間使用の予定がない場合は、トラブルを避けるためにいくつかの注意が必要です。

使用前にしなければならない点検を忘れてしまう可能性もありますので、車両を停車する前に、必ず、修復や主要チェックを行ってください。

次の作業を行なってください：

◆ 52ページ参照（バッテリーの取り外し）、52ページ参照（バッテリーを長期間使用しない時）バッテリーを取り外す。
◆ 車体を洗い、乾かします。60ページ参照（清掃）。
◆ 塗装面をワックスで磨きます。
◆ タイヤに空気を入れます、30ページ参照（タイヤ）。

◆ 規定の台を使用し、両方のタイヤが浮くように車両を設定する。
◆ 直射日光の当たらない、涼しく乾燥した温度変化の少ない場所に保管してください。
◆ 湿気が入らないよう、マフラーの先端にビニール袋などをかぶせて縛ります。
◆ 車体にカバーをかけてください。プラスチックや防水性の材質の物は避けてください。

長期間使用しなかった後は

◆ 60ページ参照（清掃）カバーを取り、車両を清掃をします。
◆ 53ページ参照（バッテリーの充電）、53ページ参照（バッテリーの取り付け）バッテリーの充電状態を点検します。
◆ 24ページ参照（燃料）燃料を注入する。
◆ 走行前の予備点検を行ないます。32ページ参照（走行前の点検）。

⚠ 危険

交通量の少ない場所であまりスピードを上げずに、数キロ程度の試験走行を行なってください。

テクニカルデータ

寸法	全長（延長リアマッドガード込み）、最長	1860 mm
	全幅	705 mm
	全高（フェアリング込み）	1120 mm
	シート高	795 mm
	軸距	1290 mm
	最低地上高	100 mm
	車両重量	108 Kg
エンジン	種類	2 サイクル
	モデル C 364	C364M
	モデル IE 361	C361M
	モデル IE 50	Aprilia engine ditech
	シリンダー数	ホリゾンタルモノシリンダー
	総排気量	49,38 cm^3
	内径／工程 IE 361 C 364	40 mm / 39,3 mm
	内径／工程 IE 50	41,0 mm / 37,4 mm
	圧縮比 C 364	12,1 ± 0,5 : 1
	圧縮比 IE 361	12,4 ± 0,5 : 1
	圧縮比 IE 50	12,3 ± 0,5 : 1
	エンジンの始動 C 364	エレクトリカル + キックスターター
	エンジンの始動 IE	電動式
	アイドリング　ｒｐｍ C 364	1700 ～ 100 rpm
	アイドリング　ｒｐｍ IE	2000 ～ 50 rpm
	クラッチ	オートマチック、乾式遠心力
	ギア	オートマチックギアチェンジ
	冷却方式	液体使用
容量	燃料（補助も含む）	7.0 リットル
	補助燃料	1.2 リットル
	トランスミッション（変速機）オイル IE 50	130 cm^3
	トランスミッション（変速機）オイル IE 361 C 364	75 cm^3
	ミキサーオイル（リザーブ含む）	1.2 リットル
	ミキサーオイルリザーブ	0.2 リットル
	冷却液	1,2 リットル（エチルグリコールまたは不凍液 50% + 水 50%）

容量	座席	座席１（パッセンジャー同乗可能な国では2）
	車両最大積載量 （運転手　＋荷物）	105 Kg
	最大積載量 （運転手　＋乗客　＋荷物）	180Kg（パッセンジャー同乗可能な国では）
トランスミッション	変速機形式	オートマチック無断変速
	１次減速機構	V ベルト
	比率 －　最低ステップレスチェンジ －　最大ステップレスチェンジ	 C 364 3,07 / IE 361 3,07 / IE 50 2,90 C 364 1,37 / IE 361 1,24 / IE 50 0,75
	２次減速機構	ギア
キャブレーター	モデル － スタンダード	 Dell'Orto PHVA 17,5
	ディフューザー	Ø 17,5 mm
エレクトロニックインジェクション IE	モデル － スタンダード	 BING 71
	ディフューザー	Ø 18 mm
補給	燃料	燃料は DIN 51607　に基づいた最低オクタン価 95 （N.O.R.M.） 及び 85(N.O.M.M.）の無鉛ガソリンのみ使用してください。
フレーム	種類	ダブルシングルビーム
サスペンション	フロント	望遠フォーク
	ストローク	90 mm
	リア	油圧シングルアブソーバー
	ストローク	69 mm
ブレーキ	フロント	ディスク－ Ø 190 mm- 水圧式トランスミッション
	リア	ディスク－ Ø 190 mm- 水圧式トランスミッション
タイヤフレーム	種類	合金製
	フロント	3,50 x 13”
	リア	3,50 x 13”
タイヤ	種類	チューブレス
	フロント	130 /60 -13” 53J
	リア	130 /60 -13” 53J

タイヤ	通常の空気圧	
	フロント	180 kPa (1,8 bar)
	リア	200 kPa (2,0 bar)
	パッセンジャーを乗せるときの空気圧 (パッセンジャー搭載可能な国では)	
	フロント	180 kPa (1,8 bar)
	リア	220 kPa (2,2 bar)
イグニッション	種類 C 364	エンジンコントロールユニット (ECU)
	種類 IE	T.D.I.
	事前点火方式 C 364	P.M.S. 前 20° ± 3°
	事前点火方式 IE	機能マップ 回転数 /a (a = スロットル開).
点火プラグ		CHAMPION RN1C
	スタンダード C 364	
	スタンダード IE 361	CHAMPION RG6YCA / RG6YC
	スタンダード IE 50	NGK-R CPR8E
	それ以外には IE	NGK-R ZMR7AP (Consigliata) / CR8EKB / CR7EKB
	スパークプラグ電極間距離 C 364	0,6 - 0,7 mm
	スパークプラグ電極間距離 IE	0,9 mm
電気システム	バッテリー	12 V - 9 Ah メンテナンス済み
	ヒューズ	7,5 A - 15 A
	ヒューズ IE	10 A - 15 A
	発電機(永久磁石) C 364	12V - 70W
	発電機(永久磁石) IE 361	12V - 165W
	発電機(永久磁石) IE 50	12V - 140W
電球	ロービーム	12V - 35W
	ハイビーム / ロービーム	12V - 35W
	前後方向指示灯	12V - 10W
	リアストップ / ストップライト	12V - 5/21W
	メイントランクの照明	12 V - LED
ランプ	ハイビーム	12 V - LED
	方向指示灯	12 V - LED
	補助燃料	12 V - LED
	インジェクションチェック IE	12 V - LED

指定油脂類表

トランスミッションオイル（推奨）： F.C., SAE 75W - 90 - GEAR SYNTH, SAE 75W - 90.
上記推奨品以外でも、A.P.I. GL-4. 規格と同等以上の品質のメーカー品オイルを使用する場合は差し支えありません。

ミキサーオイル（推奨）： PRO GPX2 または GREEN HIT 2 - CITY 2T.
上記推奨品以外でも、A.P.I. SG 規格と同等以上の品質のメーカー品オイルを使用する場合は差し支えありません。

フォークオイル（推奨）： F.A. 5W または F.A. 20W - FORK 5W または FORK 20W fork.
上記推奨品の中間粘度のオイルを使用したい場合は次のように混合してください： F. A . 5W または F.A. 20WF - FORK 5W または FORK 20W。

SAE 10W = F.A. 5W 67%（容積に対し）+ F.A. 20W 33%（容積に対し）または
FORK 5W 67%（容積に対し）+ FORK 20W 33%（容積に対し）
SAE 15W = F.A. 5W 33%（容積に対し）+ F.A. 20W 67%（容積に対し）または
FORK 5W 33%（容積に対し）+ FORK 20W 67%（容積に対し）

ベアリングとその他部位潤滑油（推奨）： AUTOGREASE MP - GREASE 30
推奨以外のものを使用する場合は、ベアリング用の
ハイクォリティーグリースを使用し、作業温度範囲が 30 ℃... +140 ℃、
滴点が 150 ℃... 230 ℃、腐食防止率が高く、水と酸化に強い物を選ぶ。
バッテリーの極端の防御：自然油またはワセリン

⚠ 危険

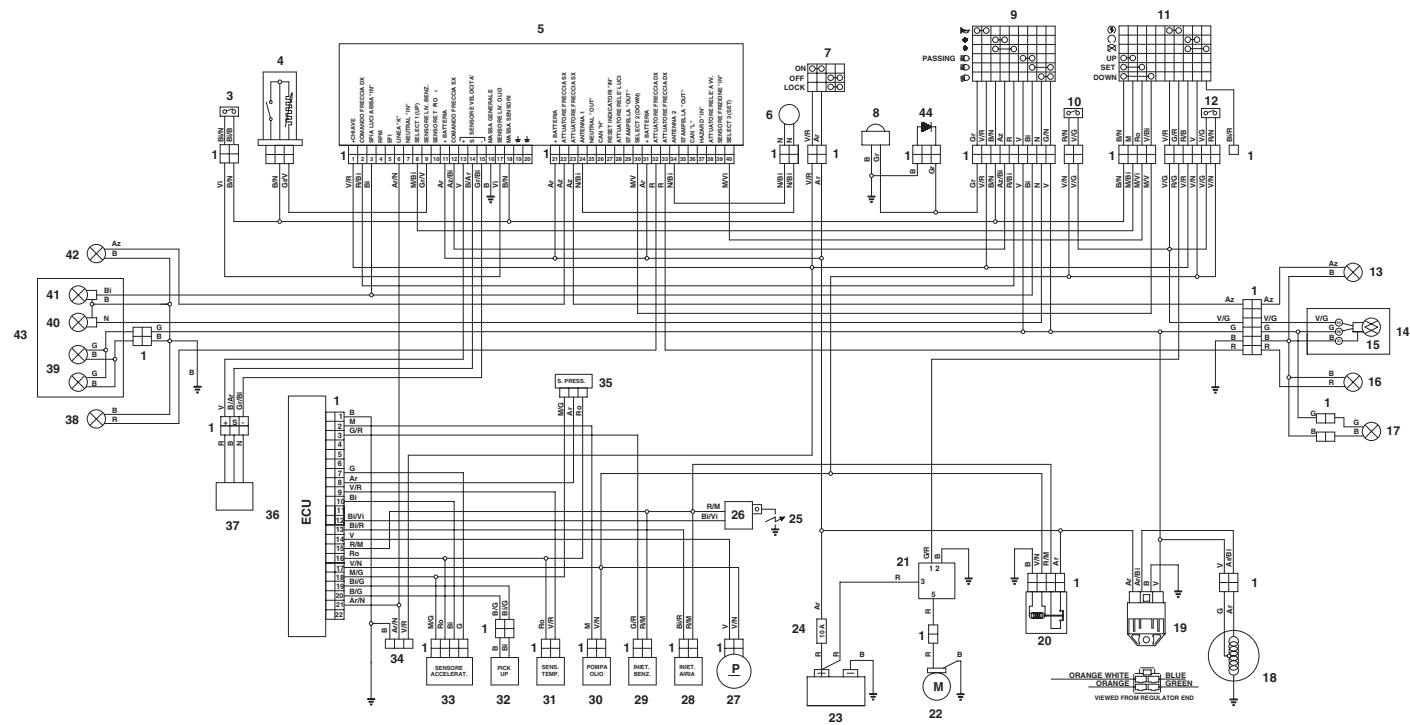
ブレーキオイルは必ず新しいものを使用して ください。メーカーの違うブレーキオイルや規格の違うオイルを混ぜないでください。

ブレーキオイル（推奨）： ブレーキオイル DOT 4（ DOT 5 も可）
他には、SAE J1703, NHTSA 116 DOT 4, ISO 4925 よりも上質な、
ハイクォリティーオイルであれば、使用可能。

⚠ 危険

不凍液と防食剤は亜硝酸塩を含まないもので、少なくとも -35 ℃までは機能するものを使用してください。

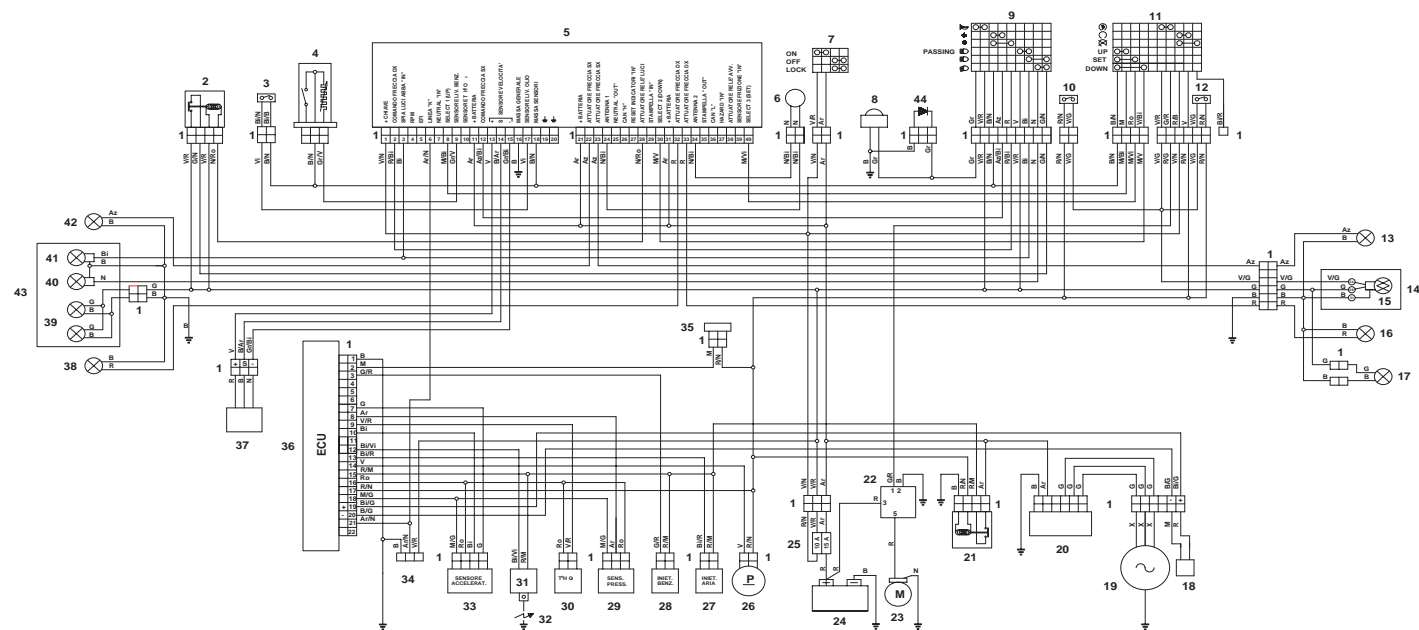
エンジン冷却液（推奨）： ECOBLU -40 ℃ - COOL.

配線図 – SR 50 DITECH IE 50

配線図目次 - SR 50 DITECH IE 50

1) 複数コネクター
2) -
3) オイルレベルスイッチ
4) 燃料レベルセンサー
5) ダッシュボード(matrix)
6) インモビライザーアンテナ
7) キースイッチ
8) ホーン
9) 左ディマースイッチ
10) リアストップライトスイッチ（左ターンインジケーター上）
11) 右ディマースイッチ
12) フロントストップライトスイッチ（右ターンインジケーター上）
13) リア左ターンインジケーター
14) テールランプ
15) 右パーキング･ストップランプ電球
16) リア右ターンインジケーター
17) ナンバープレートランプ（usa/chバージョンのみ）
18) ジェネレーター
19) ボルテージレギュレーター
20) インジェクションリレー
21) 始動リレー
22) スターターモーター
23) バッテリー
24) ヒューズ
25) 点火プラグ
26) 高圧コイル
27) フューエルポンプ
28) エアーインジェクター
29) ガソリンインジェクター
30) オイルポンプ
31) 温度センサー
32) ピックアップ
33) スロットルセンサー
34) 連続コネクション(Diag)
35) プレッシャーセンサー（またはCPUに組み込まれている）
36) 中央制御システムCPU
37) 速度センサー
38) フロント右ターンインジケーター
39) フロントパーキングライト (usa/chバージョンのみ）
40) ロービーム
41) ハイビーム
42) フロント左ターンインジケーター
43) ヘッドライト
44) ダイオード
45) -
46) -
47) -
48) -
49) -

配線カラー I

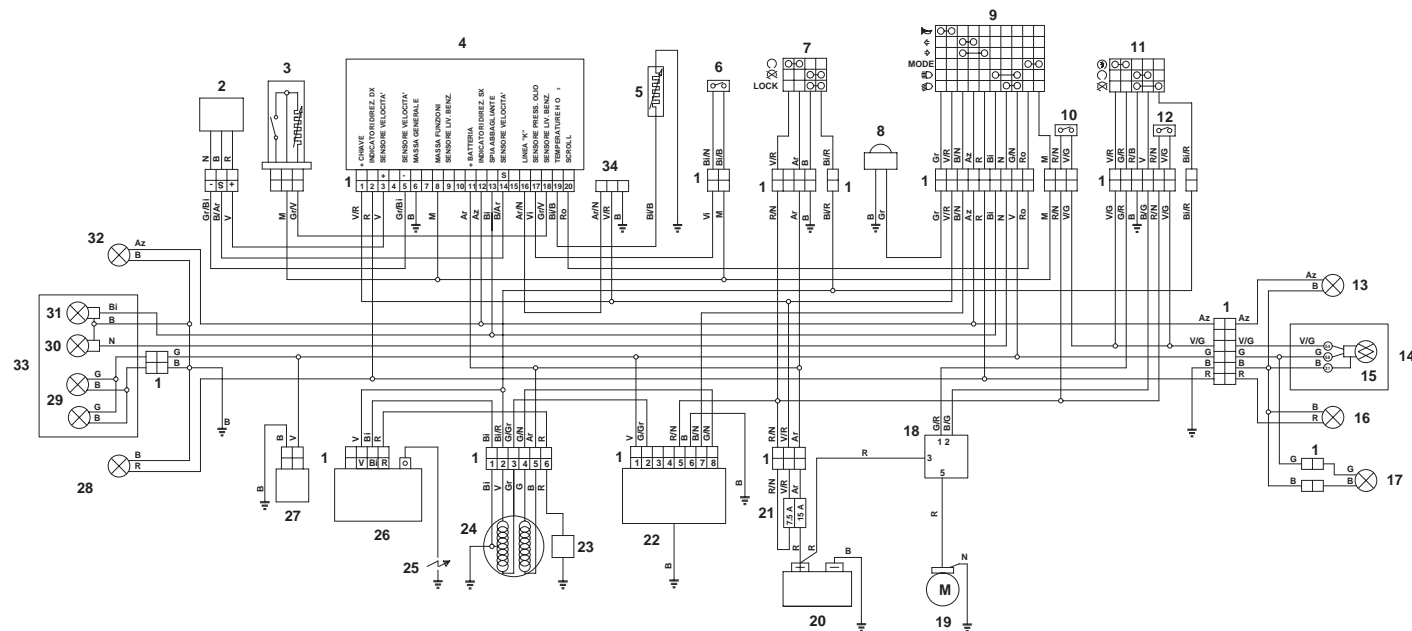
Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M 茶色
N 黒
R 赤
V 緑
Vi 紫
Ro ピンク

配線図　スクーター － SR 50 PUREJET IE 361

配線図目次 - SR 50 PUREJET IE 361

1) 複数コネクター
2) ハイ / ロービームリレー
3) オイルレベルスイッチ
4) 燃料レベルセンサー
5) ダッシュボード (matrix)
6) インモビライザーアンテナ
7) キースイッチ
8) ホーン
9) 左ディマースイッチ
10) リアストップライトスイッチ (左ターンインジケーター上)
11) 右ディマースイッチ
12) フロントストップライトスイッチ (右ターンインジケーター上)
13) リア左ターンインジケーター
14) テールランプ
15) 右パーキング･ストップランプ電球
16) リア右ターンインジケーター
17) ナンバープレートランプ (usa/ch バージョンのみ)
18) ピックアップ
19) ジェネレーター
20) ボルテージレギュレーター
21) インジェクションリレー
22) スターターリレー (防音)
23) スターターモーター
24) バッテリー
25) ヒューズ
26) フューエルポンプ
27) エアーインジェクター
28) ガソリンインジェクター
29) プレッシャーセンサー (または CPU に組み込まれている)
30) ヘッド温度センサー
31) 高圧コイル
32) 点火プラグ
33) スロットルセンサー
34) 連続コネクション (Diag)
35) オイルポンプ
36) 中央制御システム CPU
37) 速度センサー
38) フロント右ターンインジケーター
39) フロントパーキングライト (usa/ch バージョンのみ)
40) ロービーム
41) ハイビーム
42) フロント左ターンインジケーター
43) ヘッドライト
44) ダイオード
45) -
46) -
47) -
48) -
49) -

配線カラー I

Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M 茶色
N 黒
R 赤
V 緑
Vi 紫
Ro ピンク

配線図 – スクーター SR50 IE 50 –

配線図目次 - SR50 IE 50 -

1) 複数コネクター
2) 速度センサー
3) 燃料レベルセンサー
4) ダッシュボード (easy)
5) ヘッド温度センサー
6) オイルレベルスイッチ
7) キースイッチ
8) ホーン
9) 左ディマースイッチ
10) リアストップライトスイッチ（左ターンインジケーター上）
11) 右ディマースイッチ
12) フロントストップライトスイッチ（右ターンインジケーター上）
13) リア左ターンインジケーター
14) テールランプ
15) 右パーキング·ストップランプ電球
16) リア右ターンインジケーター
17) ナンバープレートライト (ch-usa バージョンのみ）
18) 始動リレー
19) スターターモーター
20) バッテリー
21) ヒューズ
22) レギュレーター
23) ピックアップ
24) ジェネレーター
25) 点火プラグ
26) トランスデューサー
27) 自動スターター
28) フロント右ターンインジケーター
29) フロントパーキングライト (ch-usa バージョンのみ）
30) ロービーム
31) ハイビーム
32) フロント左ターンインジケーター
33) ヘッドライト
34) 連続コネクション (Diag)
35) -
36) -
37) -
38)
39) -

配線カラー I

Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M 茶色
N 黒
R 赤
V 緑
Vi 紫
Ro ピンク

正規ディーラーおよびサービスセンター

aprilia サービスレベル保証

当社は数々の研修や技術者育成システムにより、全ての **aprilia** 製品のメンテナンス･補修など、お客様のニーズにお答えできる技術者を揃えております。

車両の信頼性は機能コンディションに基づくもので、事前チェックやオリジナル部品を使用しての定期的チェックはお客様に安全なライディングを楽しんで頂くための基本となります。

お問い合わせは、お近くの **aprilia** オフィシャルディーラーまたはイエローページ、**aprilia** 社オフィシャルサイト：

www.aprilia.com

aprilia オリジナル部品は部品すべての品質･機能チェックが車両の企画段階から保証されています。**aprilia** オリジナル部品を使用しての部品交換では、部品すべての品質・機能チェックが保証されています。

この車両を選んで頂いたお客様に **aprilia** s.p.a. は心からの感謝を申し上げます。

- 環境汚染を防ぐために、オイル、燃料、その他の有害物を無断に放置しないでください。
- 必要時以外はエンジンを消す事を心がけてください。
- 他人に迷惑となる騒音は避けるようにしましょう。
- 自然環境保護に心がけましょう。